

第2次熊本市人権教育・啓発基本計画に関する

令和6年度(2024年度)実施状況報告

令和6年度(2024年度)実施状況報告

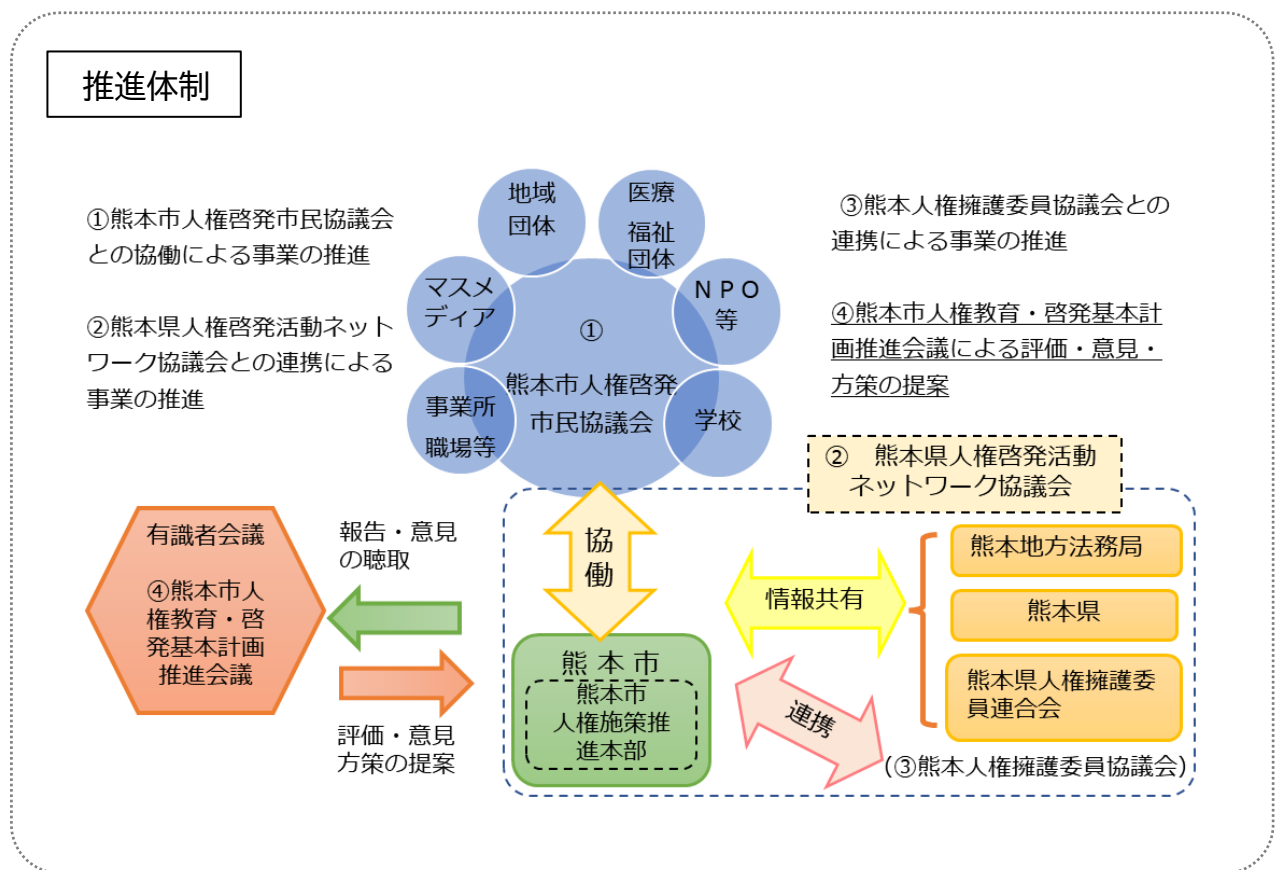
1	第2次基本計画の推進体制について	1
2	第2次基本計画の検証指標について	2
3	分野別人権問題ごとの実施状況	
1	女性(又は男性)に関する人権問題	3
2	子どもに関する人権問題	4
3	高齢者に関する人権問題	14
4	障がいのある人に関する人権問題	15
5	部落差別(同和問題)	23
6	外国人に関する人権問題	25
7	性的マイノリティに関する人権問題	28
8	水俣病に関する人権問題	31
9	ハンセン病回復者とその家族に関する人権問題	38
10	エイズ患者やHIV(エイズウイルス)感染者に関する人権問題	40
11	刑を終えた出所者等に関する人権問題	42
12	犯罪被害者等に関する人権問題	44
13	インターネットに関する人権問題	46
14	災害に関する人権問題	48
15	アイヌの人々に関する人権問題	49
16	難病患者に関する人権問題	50
17	北朝鮮当局による拉致被害者等に関する人権問題	51
18	ホームレスの人々に関する人権問題	52
19	自死遺族に関する人権問題	53
20	様々な人権問題	55
	・ハラスメントに関するもの	55
	・人権全般の研修等に関するもの	56
	・啓発作品募集等に関するもの	58
	・広報紙等による啓発に関するもの	59
	・人権全般に関するイベント、講演会等	60
	・戦争と平和に関するもの	63

第2次熊本市人権教育・啓発基本計画に関する 令和6年度（2024年度）実施状況報告

本市では、様々な人権問題の解決に向けた施策の方向性について、平成21年（2009年）3月に「第1次熊本市人権教育・啓発基本計画」を、さらに、令和2年（2020年）3月には計画期間を令和9年度（2027年度）までの8年間とする「第2次熊本市人権教育・啓発基本計画（以下、第2次基本計画）」を策定し、人権教育・啓発に取り組んでいます。

1 第2次基本計画の推進体制について

取組にあたっては、毎年度その実施状況について、「熊本市人権教育・啓発基本計画推進会議」を開催し、外部委員による評価を受けるとともに、その内容を市のホームページ等で公表することとしています。

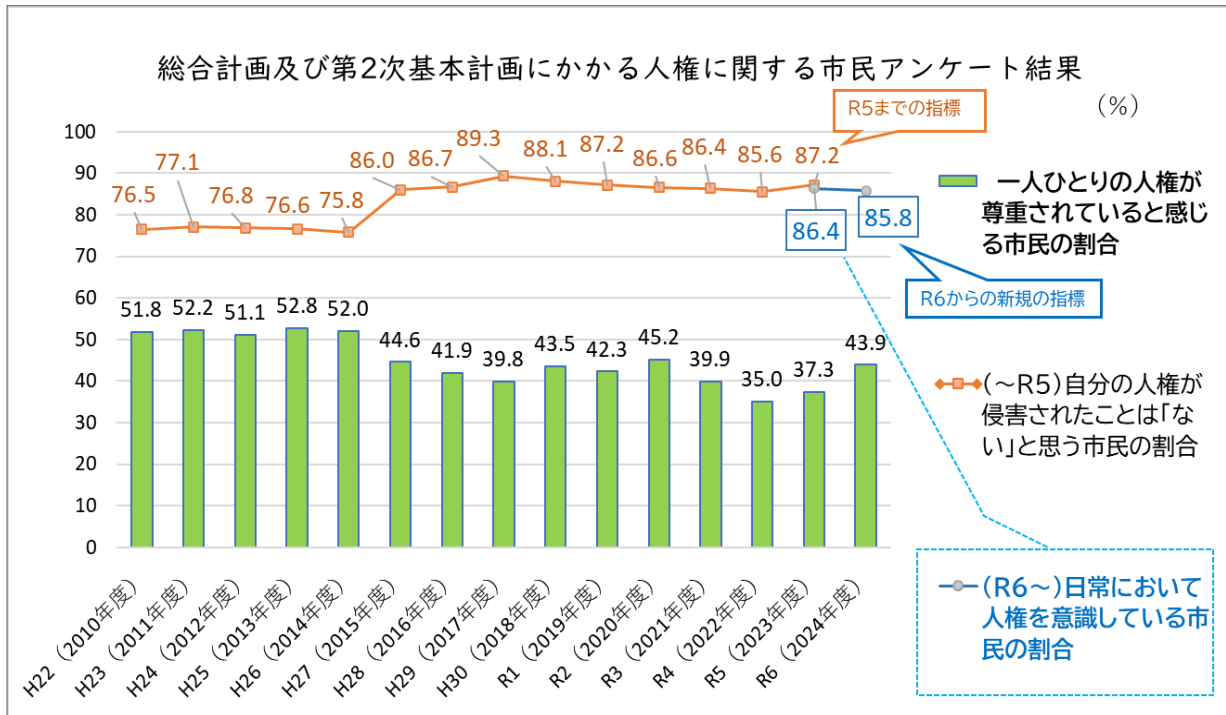


2 第2次基本計画の検証指標について

(1) 検証指標

検証指標	基準値 H30年度 2018	R5年度 2023	目標値 R9年度 2027
一人ひとりの人権が尊重されていると感じる市民の割合	43.5%	目標値 47.0% 実績値 37.3%	中間見直し前 55.0% 中間見直し後 47.0%
~R5 自分の人権が侵害されたことは「ない」と思う市民の割合	88.1%	目標値 92.0% 実績値 87.2%	中間見直し前 95.0% 中間見直し後指標から削除
R6~ 日常において人権を意識している市民の割合	—	基準値 86.4%	中間見直し後 新規指標 90.0%

(2) 市民アンケート結果 [平成22年度(2010年度)~令和6年度(2024年度)]



日常において人権を意識している市民の割合

(実際の設問内容)

Q あなたは、日頃、ある事柄が偏見や差別ではないかと考えたり、差別は絶対にいけないということを意識していますか。(又は意識して行動していますか。)

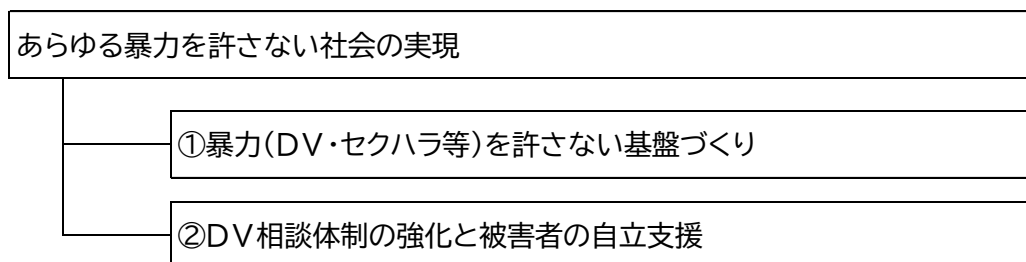
分野別人権問題ごとの実施状況

1 女性(又は男性)に関する人権問題

(1)基本方針

あらゆる市民がそれぞれの個性と能力を発揮し活躍するためには、その阻害要因となる相手の人権を損なう行為であるDVやセクハラ等の暴力を根絶することが必要です。このことから、あらゆる暴力を許さない意識の醸成とともに、関係機関と連携し、複雑かつ多岐にわたる相談に対応するよう相談体制・支援体制の充実を図ります。

(2)施策の体系



①暴力(DV・セクハラ等)を許さない基盤づくり／②DV相談体制の強化と被害者の自立支援

担当課(室)	事業名	内容	経費(千円)	効果及び課題と方向性
男女共同参画課	女性相談員等による相談及び啓発	①DV相談 令和6年度DV相談件数 1,274件 ②弁護士による法律相談 ・実施回数：36回 ③デートDV動画の作成及び配信 R7.9月視聴回数： ・LINE編3,942回 ・デート編4,354回	14,846	様々な媒体を活用しDV防止の広報・周知を行っていくとともに、関係する部署や団体と連携してDV防止を進めていく。

③その他

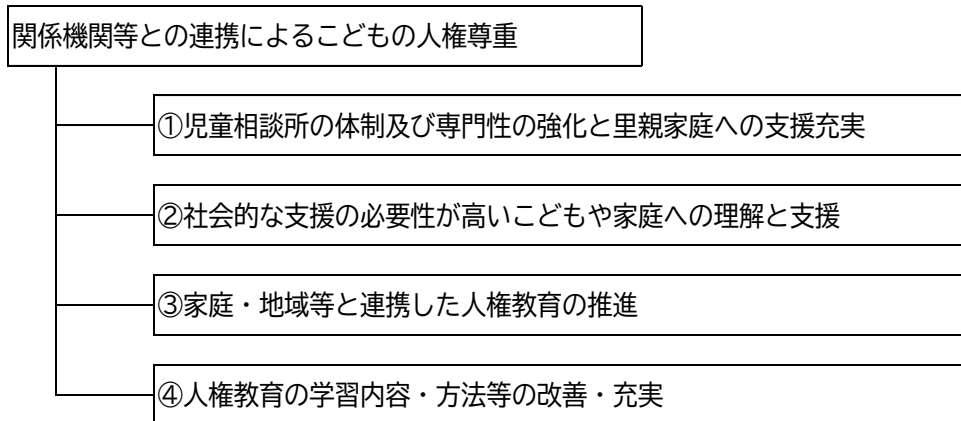
担当課(室)	事業名	内容	経費(千円)	効果及び課題と方向性
人権政策課 熊本市人権啓発市民協議会	市職員に対する人権研修会	人権尊重の視点に立った業務の遂行や公平・公正なサービスの提供など、人権に関する職員の人材育成を図るため、性別に関係なく誰もが平等に活躍できるジェンダー平等社会について、日本と世界の現状を学ぶ研修会を実施。 演題：ジェンダー平等について 一緒に考えてみませんか？ 講師：三輪敦子氏 (一財)アジア・太平洋人権情報センター(ヒューライツ大阪) 実施日：令和7年1月20日(月) 場 所：国際交流会館ホール 対象者：熊本市職員(教育委員会事務局含む) 参加者：130人	66	外部講師による研修は最新の知見や事例に基づくものであり、内部研修では得られにくいことへの気づきや職員が日常業務で直面する課題への対応に役立つものである。今後も、様々な人権問題について、職員の人権意識の向上につながる研修を実施していく。

2 こどもに関する人権問題

(1)基本方針

「こどもの最善の利益」が実現される社会を目指すとの考えを基本に、こどもの視点に立ち、家庭、地域、保育所等・幼稚園、学校、事業所・職場、行政機関等が連携し、こどもの人権について語り合い理解する機会を数多く設け、人権尊重の取組を進めていきます。併せて、児童虐待の防止も含め、こどもに関心を持つような啓発も行います。

(2)施策の体系



②社会的な支援の必要性が高いこどもや家庭への理解と支援

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
こどもの権利サポートセンター	こどもの権利に関する相談事業	相談窓口「こどもホットライン」を設置し、学校内外を問わず、こどもの権利に関する相談を受け、関係部署と連携し解決に向けた取り組みを行った。	18,561	相談窓口の認知度向上を図ったことにより、相談件数の増加につながった。 引き続き、こどもの権利を守るための相談対応を行っていくとともに、こどもの権利に係る広報・啓発に取り組んでいく。
人権教育指導室	教育委員会事務局職員等人権啓発研修会	こどもの人権について、現状を知り課題を共有しながら、具体的な解決方法を考えていく講演を実施。 演 題：「自分は愛されるために生まれてきた～すべての子ども・若者がそう思える未来へ」 講 師：山下 祈恵 氏 NPO法人トナリピト代表理事 実施日：令和6年7月11日（木） 場 所：国際交流会館 対象者：教育委員会事務局職員 参加者：175人	63	講師の体験や現在の活動から、こどもたちが置かれた状況や支援の現状について深く考えることができた。行政職員、教職員、個人、それぞれの立場で、「こどもまんなか」社会にするために大切にするには何かを考えさせられる研修となった。 次年度も継続して実施する。

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
こども家庭福祉課	オレンジリボンキャンペーン	<p>児童虐待に対する市民の関心と理解を深めることによって、児童虐待の発生予防、早期発見及び早期対応につなげることを目的としたオレンジリボンサポーター養成講習会や講演会を実施。また、ラジオ放送、熊本城カラーライトアップにより周知啓発を行った。</p> <p>・オレンジリボンサポーター養成講習会・講演会 計23回実施 ・オレンジリボンサポーター養成講習会受講者数：870人</p>	979	<p>家庭や学校、事業所および地域等、幅広く児童虐待問題についての啓発ができた。加えて、相談窓口や通告窓口の周知ができた。</p> <p>今後も本キャンペーンを実施し、引き続き児童虐待問題についての啓発を図る</p>

③家庭・地域等と連携した人権教育の推進

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
南部公民館	人権フォーラム	<p>子どもの権利条約について考える。コーディネーターとして水野直樹氏を講師に招き、「権利と義務」の違いについてフォーラムを実施。</p> <p>演 題：「こどもの人権について」 講 師：水野 直樹 氏 実施日：令和6年6月5日（水） 場 所：カ合中学校 対象者：全生徒と教職員、保護者 参加者：約600人</p>	14	<p>子どもの権利条約について話し合いながら、意見を出すことができた。最後に「自分の中で大切にしたいもの」を考えることができ、人権に対する認識が高まった。</p>
城南公民館	第2回こころを育てるあったかセミナー（人権教育講演会）	<p>「こうのとりのゆりかご」の当事者である講師の活動「子ども食堂・子ども大学」の取組みを通して、人権問題や身の回りの人権について親子で学ぶ機会づくりへの提言等に関する講話内容</p> <p>演 題：こうのとりのゆりかごから始まる第2の人生 講 師：宮津 航一 氏 実施日：令和6年9月21日（土） 場 所：城南公民館（学習室1・2） 対 象：どなたでも 参加人数：81人 （内オンライン参加13人）</p>	7	<p>様々な障壁を乗り越えて今に至った講師（当事者）の思いを通して、こどもたちのための取組に協力的な姿勢と支援をしていきたいという雰囲気が会場内にあった。こども基本法が施行されたタイムリーな時期でもあり、参加者の心に浸透する内容であった。今後も継続して啓発の機会を設けていく。</p>
熊本市西区3館公民館（西部・河内・花園）	人権映画上映会	<p>特別支援教育の対象となる子も、自分の気持ちをうまくコントロールできない子も、みんな同じ教室で学ぶ大空小学校のドキュメンタリー映画の上映。</p> <p>映画：みんなの学校 実施日：令和7年1月18日（土） 場所：西部公民館 対象者：市民 参加人数：53人 ※主催：熊本市西区3館公民館（西部・河内・花園） 共催：熊本市人権啓発市民協議会</p>	65	<p>映画を通して、児童と教職員だけでなく、保護者や地域の人もしょよになって、誰もが通い続けることができる学校を作りあげる大切さを感じてもらうことができた。今後も学校関係者も含めて周知・広報を図っていく。</p>

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
熊本市ふれあい文化センター	教養講演会	<p>かけはしウィークと題して、小中学校とふれあい文化センターが共催で実施した事業の一つ。</p> <p>演 題：「ストリートチルドレンの生き方に学ぶ」 講 師：寺本 真将 氏 （フリースクール代表）</p> <p>実施日：令和6年11月27日（水） 場 所：春竹小学校 対象者：春竹小5年生 参加者：68人</p> <p>実施日：令和6年11月29日（金） 場 所：ふれあい文化センター 対象者：本荘小5、6年生と地域住民 参加者：28人</p> <p>実施日：令和6年11月29日（金） 場 所：江原中学校 対象者：江原中学校全生徒と保護者 参加者：290人</p>	42	インドで子どもたちのフリースクールを開いておられる寺本さんの帰熊の日程がちょうど合い、講演会を実施することができた。世界の子どもたちの様子を聞き、相手が可哀そう、自分は良かったということではなく、自分が生きている環境で精一杯頑張ることの大切さについて感じてくれたと思う。
南部公民館	ハートフル講演会	<p>寺本さんが訪れた国での子どもたちの様子を写真や動画を交えながら知ってもらう。今のおかれている環境を自分事として考えてもらう。</p> <p>演 題：「世界の子どもたちについて学ぼう」 講 師：寺本 真将 氏 実施日：令和6年11月26日（火） 場 所：城南中学校 対象者：全生徒と保護者 参加者：400人</p>	14	講師の方の一つ一つのお言葉に説得力があった。世界のストリートチルドレンや過酷な児童労働することもたちの生き方、想い、背景等に心が動かされた。恵まれた環境にいる自分たちは「一生懸命生きる」ということを忘れてはならない大切なことであると強く感じたとの意見があった。
幸田公民館	ハートフル講演会	<p>寺本さんが訪れた国やインドに設立した学校での子どもたちの様子を写真や動画を交えながら知る。今のおかれている環境と比べて考える機会とする。</p> <p>演 題：「世界の子どもたちについて学ぼう」 講 師：寺本 真将 氏 実施日：令和7年2月4日（火） 場 所：熊本市立御幸小学校 対象者：5・6年生と保護者 参加者：200人</p>	14	世界角国のストリートチルドレンや過酷な児童労働の過酷な現状に驚かされた。今の環境がいかに恵まれているかわかった。親に感謝して、今の自分に何ができるのかを考えて行動していきたい。との感想が多くあった。日本の平和が多く国民の努力によって保たれていることがわかる内容。

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
龍田公民館	おでかけ公民館講座、ハートフル講演会	ストリートチルドレンとの出会いを通して、「自分の日常の当たり前と思うことは世界においては当たり前ではない」ことや、日常生活の有難さと大切さを学ぶ講話内容。 演題：ストリートチルドレンの生き方に学ぶ 講師：寺本 真将 氏 実施日：令和7年2月5日 場 所：楠中学校 対 象：2年生及び教職員 参加人数：107人	7	講師からインドなど外国で暮らす子どもたちの実情を聞き、日本との違いに驚くと共に、子どもの人権について深く考え、自分のこと重ねて考えていた。 今後も継続して啓発の機会を設けていく。
植木公民館	おでかけ公民館講座、ハートフル講演会	講師の実体験から、「自分の当たり前が世界では当たり前ではない」ことを知るとともに、世界では苦しみ、差別されている子どもたちがいることを知り、一生懸命生きることの尊さを学ぶ内容。 演 題：「世界の子ども達について学ぼう」 講 師：寺本 真将氏 実施日：令和6年10月29日（火） 場 所：桜井小学校 対 象：6年生児童及び保護者 参加人数：54人 実施日：令和6年10月25日（金） 場 所：菱形小学校 対 象：5年、6年生児童及び保護者 参加人数：87人	14	講師から当事者の思いを聞くことで、自分のこととして捉えることができていた。 今後も継続して啓発の機会を設けていく。
植木公民館	おでかけ公民館講座、ハートフル講演会	子どもにも人権があること、大人が丁寧に子どもの声を聞き支援すること、困った時に困ったと言ったり、SOSを出して何に困っているのかを具体的に伝えたりすることの大切さを学ぶ講話内容。 演 題：子どもの人権について 講 師：坂口 明夫 氏 （社会福祉法人 甘木学園理事長） 実施日：令和6年6月27日（木） 場 所：田底小学校 対 象：全児童及び保護者 参加人数：117人	7	講師から当事者の思いを聞くことで、自分のこととして捉えることができていた。 今後も継続して啓発の機会を設けていく。
妊娠内密相談センター	生殖や妊娠・出産に係る正しい知識等に関する講演会の開催	包括的性教育に基づき、人間関係、性的同意、困った時にSOSを出すことの大切さなどに関する講演会を実施。 実施数：2校 場 所：各学校 対象者：当該学校の生徒 参加者：566人	0	同意の重要性や、困ったときに相談しようとする意識の向上につながった。 今後も、中高生以外にも対象を広げながら啓発を実施する。

④人権教育の学習内容・方法等の改善・充実

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
妊娠内密相談センター健康教育課	性に関する教育等を実施する専門職への研修会	<p>身体や生殖の仕組みだけでなく、人間関係やジェンダーの理解、性にかかわる意思決定など幅広いテーマを学ぶ包括的性教育に関し、性教育を担う専門職を対象とした研修会を実施。</p> <p>演 題：「こどもたちのウェルビーイングのための学び ～包括的性教育って何だろう?～」 講 師：埼玉大学 ダイバーシティ推進センター 准教授 渡辺 大輔氏 実施日：令和7年2月19日（水） 場 所：熊本城ホール大会議室A2 対 象：学校及び地域等にて性教育や性に関する相談支援に携わる者 参加者：146人</p>	212	<p>人権を基盤とした包括的性教育の概念について理解が深まり、性の人権を意識する視点が育まれた。今後も継続して研修会を企画していく。</p>
保育幼稚園課	熊本市保育所等合同研修会「人権保育・教育研修会」	<p>こども一人一人の個性を尊重し、こども同士の育ちを援助する保育を行うために、職員の人権意識を高めることを目的とした研修会を実施。</p> <p>演 題：「不適切な保育を未然に防止するために」 講 師：西田 泰子 氏 （常葉大学短期大学部非常勤講師） 実施日：令和6年7月26日（金） 場 所：オンライン 対象者：熊本市内の保育施設等の職員</p>	15	<p>不適切な保育が生じる要因や「グループシンク」について学ぶことができ、こどもの最善の利益は何かを考え、こどもの人権・命を守る保育につながる研修となった。</p>
保育幼稚園課	熊本市保育所等合同研修会「人権保育・教育研修会」	<p>こども一人一人の個性を尊重し、こども同士の育ちを援助する保育を行うために、職員の人権意識を高めることを目的とした研修会を実施。</p> <p>演 題：「児童虐待の基礎知識と対応について」 講 師：熊本市児童相談所職員 実施日：令和6年11月13日（水） 場 所：オンライン 対象者：熊本市内の保育施設等の職員</p>	0	<p>児童相談所の機能と役割、熊本市における虐待の現状や乳幼児期に虐待を受けるこどもへの影響、事例をもとに保育園での対応の方法など学ぶことができた。</p>

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
保育幼稚園課	熊本市就学前 人権保育・教育 研修会	<p>こどもの人権を守るために、保育士や保育教諭、幼稚園教諭の基本的な認識を深めるとともに、こどもの理解と支援のあり方等をとおして、人権保育・教育の推進を図ることを目的に研修会を実施</p> <p>演 題：「みらいに思いをつなぐ絵本『つるつるのおとうと』」 講 師：森 孝文氏 （熊本県立第一高等学校教諭） 実施日：令和7年1月20日（月） 場 所：ウェルバルくまもと 対象者：熊本市内の保育施設等の職員</p>	15	ハンディを抱えたこどもを持つ保護者の生の声を聞くことで、こどもの見方、こどもや家族の思いについて学ぶ機会となった。
人権教育指導室	人権教育主任 研修会	<p>園・学校における人権教育推進の要である人権教育主任の資質向上を目指し、人権教育の意義及び重要性についての理解促進および職務内容等の説明および実践報告を行った。</p> <p>実施日：令和6年5月10日（金） 方 法：オンライン 対象者：市立幼稚園 学校の人権教育主任 参加者：146人</p>	0	<p>人権教育主任の役割や各種業務の説明、実践報告（人権集会、部落問題学習）などの内容で、参加者に好評だった。</p> <p>説明事項の量が膨大なので、さらに精選し、意欲的に学べるようにしたい。 また、部落問題学習や人権学習について、わかりやすく実践化できるものを紹介していきたい。</p>
人権教育指導室	人権教育セミナー	<p>人権課題に対する基本的認識を深めること、個々の人権感覚を磨くこと、各園や学校での人権教育の推進を図ることを目的とした講演会の実施。</p> <p>演 題：特別支援教育の視点に立った 児童生徒とのかかわり方 講 師：川上 康則 氏 杉並区済美養護学校主任教諭・立教大学兼任講師 実施日：令和6年7月29日（月） 方 法：オンライン 対象者：市立幼稚園・学校の教職員 参加者：1360人</p>	36	<p>講師の豊富な経験や長年の研究に基づいた講話は、教職員のこどもへの向き合い方や自らの人権感覚を見つめ直す機会となった。 参加者からも概ね満足との感想を得ている。課題として、講話が事前収録であったため参加者が直接の質問できなかったことが挙げられる。</p> <p>参加者のニーズを把握しながら次年度も継続して実施する。</p>

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
人権教育指導室	地区別人権教育研修会	<p>すべての子どもたちの人権が尊重され、子どもたち一人一人が自尊感情を高め、互いを認め、支え合っていく人権教育の推進のため、レポートに基づく分科会、授業研究会、基本的認識部会をブロックごとに実施した。</p> <p>実施日：令和6年11月13日（水） 場 所：市立の園・学校に分かれて 対 象：市立幼稚園・学校の職員 参加者：4,420人</p>	0	<p>子どもや保護者の思いや願いを大切にされた実践から、子どもとのかかわり方や自身の人権感覚等について振り返る大変貴重な研修の場となっている。さまざまな職種からの参加が多い基本的認識部会も好評であった。</p> <p>各ブロックの実行委員長と連携を深めながら次年度以降も継続して実施する。</p>
人権教育指導室	園・学校訪問	<p>人権学習の授業と授業研究会を通して、人権学習の指導のあり方についての理解を図るとともに、各園・学校における人権教育推進上の課題の把握をし、助言ならびに啓発を行っている。</p> <p>実施数：1園・36校 場 所：市立幼稚園・学校 サイクル：4年で全園・学校を訪問する</p>	0	<p>人権教育全般に関する助言、人権学習の授業作り、研究会、ミニ講座を行っており、達成感や深い学びにつながる感想が多い。</p> <p>4年に1度の実施なので、異動等で長く受けられない教職員もいる。</p> <p>学校訪問の内容として、充実しているので、あと1サイクルはこの形を継続したい。</p>
人権教育指導室	熊本市子どもフォーラム	<p>「児童の権利に関する条約」の周知と子どもの意見表明の機会の確保を目的として開催している。テーマは、各学校のニーズによる。</p> <p>実施数：18校 場 所：市立幼稚園・学校 参加者：児童生徒・教職員・保護者・地域住民</p>	306	<p>「児童の権利に関する条約」の周知について、フォーラムで取り上げるテーマは様々だが、各学校の取組により進んでいる。継続的な取組にすることでさらに効果があがると思われる。</p> <p>予算の範囲内で実施校を拡大していく。</p>
人権教育指導室	熊本市中学生による子ども議会	<p>「子ども基本法」と意見表明権についての研修の後、参加者がテーマにそった討議を行い、各分科会で話し合った内容を発表した。</p> <p>テーマ：「全校生徒が本気で取り組む学校づくりについて話し合おう」</p> <p>実施日：令和6年7月31日（水） 場 所：熊本市議会本会議場他 対象者：市立、私立、国立の中学校からの代表 参加者：51人</p>	0	<p>参加者の当日の満足度が高く、また、その後の学校における生徒会活動の活性化につながっている。</p> <p>参加する生徒のニーズを把握しながら、次年度以降も継続して実施する。</p>

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
人権教育指導室	校則・生徒指導のあり方の見直し	民主主義の基本を身に付けながら自ら判断し行動できる児童生徒の育成を目指し、市立の全ての小・中・高等学校で実施している。校則を変えることだけを目的にするのではなく、児童生徒・教職員・保護者がともに話し合い、考える場を作ることを前提とし、児童生徒が自ら考え決めていく仕組みづくりを重視している。 対象：市立の全小・中・高等学校	0	各学校での見直しが継続して行われており、仕組みづくりも進んでいる。ただし、こども自身が参画している実感を伴う意見収集の仕方にはまだ課題が残る。 今後は、各校の取組の充実を目指し、工夫ある取組を提案、紹介するなどして、働きかけていく。
こども支援課	子育てほっとステーション全体研修①	演題：「乳幼児の発育特性や個人差に合わせた遊ばせ方について」 講師：益満美寿氏 熊本保健科学大学健康・スポーツ教育研究センター 准教授 実施日：令和6年10月3日（木） 場 所：くまもと県民交流館パレア 対象者：子育てほっとステーション（子育て支援センター） 児童館（室） 街なか子育てひろば こども文化会館 の職員、 各区保健こども課担当保健師 参加者：52人	15	こどもの発達的面から、発達特性に合わせた遊びを考えていく研修を行った。参加者からの事前質問に講師から当日回答だけでなく、後日文書で丁寧な回答をいただき、皆で共有することができた。 参加者からは「実践につながる発達支援関連の研修でよかった。日頃悩んでいることだったので、とてもありがたかった」等の回答があった。実践に繋がるこどもの発達研修を今後も組み立てていきたい。
こども支援課	子育てほっとステーション全体研修②	演 題：「サポート業務におけるメンタルケアとストレスマネジメント」 講 師：心理カウンセラー 三浦佑子氏 実施日：令和7年3月6日（木） 場 所：中央公民館 対象者：子育てほっとステーション（子育て支援センター） 児童館（室） 街なか子育てひろば こども文化会館 の職員、 各区保健こども課担当保健師 参加者：39人	6	サポートをする業務職員にむけたメンタルケアとストレスマネジメントを学ぶ研修であったが、保護者の支援に役立つ内容も聞くことができた。 参加者からも「支援者のメンタルケアの大切さが虐待防止にもつながることを意識して業務をおこないたい」等の回答があった。今後も取り入れていくことが必要と考える。

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
こども支援課	子育てほっとステーション虐待防止研修第1回	演 題：「多文化共生時代の保護者支援」 講 師：九州ルーテル学院大学 准教授 三井 真紀氏 実施日：令和6年6月26日（水） 場 所：中央公民館 対象者：子育てほっとステーション （子育て支援センター） 児童館（室） 街なか子育てひろば こども文化会館 の職員、 各区保健こども課担当保健師 参加者：36人	15	多文化共生の視点から、 こどもの人権について、 人権意識・人権感覚の捉 え直しが大切なことを学 んだ。参加者からは「現 代の子育て事情等を聞く ことができ、多くの学び があった」と回答があっ た。
こども支援課	子育てほっとステーション虐待防止研修第2回	演 題：「児童虐待 現状と私たちに できること - 子どもの健全な発育を促す ために -」 講 師：NPO法人優里の会 副理事長 園部 博範氏 実施日：令和6年11月13日（水） 場 所：中央公民館 対象者：子育てほっとステーション （子育て支援センター） 児童館（室） 街なか子育てひろば こども文化会館 の職員、 各区保健こども課担当保健師 参加者：40人	15	こどもの健全な発育を促 すために、児童虐待の基 本的知識と現状を学ぶ。 知ることの大事さ、支援 者として今できること・ やるべきことを共有す ることができた。 定期的に、情報を共有し アップデートしていく必 要性を感じた。
こども支援課	子育てほっとステーション虐待防止研修第3回	演 題：「子育て支援は家族支援 ～これからの地域の子育てを 考える～」 講 師：NPO法人優里の会 理事長 黒田 信子氏 実施日：令和7年1月22日（水） 場 所：中央公民館 対象者：子育てほっとステーション （子育て支援センター） 児童館（室） 街なか子育てひろば こども文化会館 の職員、 各区保健こども課担当保健師 参加者：41人	15	第2回虐待防止研修から の連続研修となる。 グループワークで事例検 討をおこなっていき、こ れからの地域の子育て支 援について学ぶことがで きた。 座学だけでなく、グルー プワークも取り入れ、学 びを深めていきたい。

⑤その他

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性																		
人権政策課	人権の花運動 〈法務省人権啓発活動地方委託事業〉	前任の小学校から花の種という命のバトンを受けとり、育て、次の小学校に収穫した種をつなげる運動。 児童が花を育てていく過程において、命の大切や協力して互いを思いやりながら作業等を進めることで、人権についての学びを深めることを目的としている。 各学校での人権擁護委員による人権教室も実施 <table border="0" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td>(伝達式)</td> <td>(終了式)</td> </tr> <tr> <td>白川小</td> <td>(中央区) 6/18</td> <td>12/15</td> </tr> <tr> <td>秋津小</td> <td>(東区) 6/11</td> <td>12/8</td> </tr> <tr> <td>芳野小</td> <td>(西区) 6/4</td> <td>12/13</td> </tr> <tr> <td>奥古閑小</td> <td>(南区) 6/5</td> <td>11/22</td> </tr> <tr> <td>川上小</td> <td>(北区) 6/12</td> <td>11/21</td> </tr> </table>		(伝達式)	(終了式)	白川小	(中央区) 6/18	12/15	秋津小	(東区) 6/11	12/8	芳野小	(西区) 6/4	12/13	奥古閑小	(南区) 6/5	11/22	川上小	(北区) 6/12	11/21	650	学校からのアンケートや報告書の提出により効果の検証を行っており、概ね有効であったとの回答を得ている。 花の種の伝達式等での講話や人権擁護委員からのSOSミニレターの紹介、人権教室の開催などを通して、人権について考える機会の創出につながったといった回答があった。 酷暑による水やりの負担等があるため、校内の緑化活動等連携した取組が必要である。
	(伝達式)	(終了式)																				
白川小	(中央区) 6/18	12/15																				
秋津小	(東区) 6/11	12/8																				
芳野小	(西区) 6/4	12/13																				
奥古閑小	(南区) 6/5	11/22																				
川上小	(北区) 6/12	11/21																				
熊本市ふれあい文化センター	出前講座	ふれあい文化センター職員による体験型人権学習 演 題：「自分も相手も大切にするトークスキル」 講 師：ふれあい文化センター職員 実施日：令和6年10月22日（火） 場 所：春竹小学校 対象者：春竹小学校1～3年生 参加者：220人	0	学校でも日常的に取り組んでいることだが、改めて学ぶことができ良かったという感想をいただいた。ただ、下学年の児童には座学の35分間は長すぎたので、次回は活動を増やす等、工夫が必要だと感じている。																		
人権教育指導室	こどもの人権啓発ポスター	こどもの人権及び個人の尊重についての理解を深めるためにポスターを作成し、配布した。 発行月：R7.3 発行部数：350部 配布先：市立の園・学校	100	人権啓発作品を活用し、児童・生徒にわかりやすく、メッセージが届きやすい構成でポスターを作成し、配布できた。																		
人権教育指導室	シティFM・RKKスポット放送による啓発	人権に係る時事的または普遍的なことについて、メディアを通して市民に発信する。 【シティFM】 放送回数：3回 出演者：本室職員 1回目：個性を大切にしようの啓発パネルの紹介 2回目：人権啓発作品募集について 3回目：児童の権利に関する条約について 【RKKスポット放送】 放送回数：月に4～5回×12月 出演者：当番校（小・中学校）児童・生徒	0	メディアを通じた啓発のメリットとして広く市民に届けることができる。シティFMでは様々なテーマで啓発ができた。RKKでは各学校の取組や人権メッセージなどを発信することができた。 今後も継続して実施していく。																		

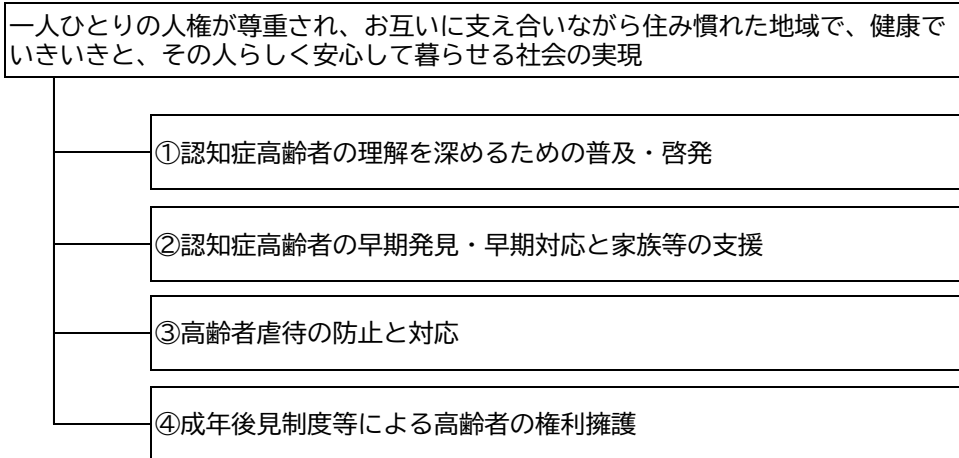
3 高齢者に関する人権問題

(1)基本方針

平成15年(2003年)から「熊本市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（通称「くまもとはつらつプラン」）」を3年ごとに見直しを行いながら、総合的な高齢者施策を推進しています。

さらに、年齢や障がいの有無等に関わらず、社会生活・社会参加ができるよう、市管理施設のバリアフリー化に取り組みます。

(2)施策の体系



⑤その他

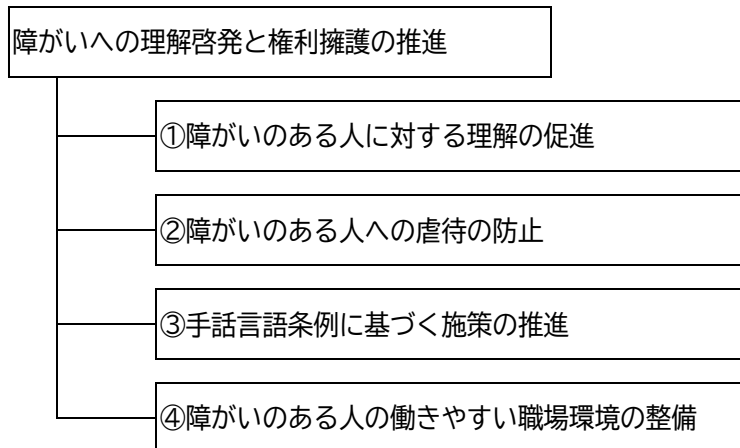
担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
秋津公民館	人権教養講演会	<p>高齢者が被害者となる詐欺事件について熊本県警から「詐欺事件の現状と統計」について説明。その後、実際に起こった肥後銀行での事案を紹介。さらに肥後にわかに「オレオレ詐欺」を題材にしたにわかを披露してもらった。</p> <p>演題：「肥後にわかde詐欺防止！」 実施日：令和6年12月1日（日） 場所：秋津公民館 ホール 対象者：どなたでも 参加者：57名</p>	7	詐欺事件の現状と統計や実例を実際の音声を入れながら紹介したことで、参加者は自分自身にも起こりうることでであると認識することができた。また、肥後にわかで面白おかしく印象に残る内容だった点も良かった。さらに被害を防ぐためのポイントももっと詳しく紹介できればよかった。

4 障がいのある人に関する人権問題

(1)基本方針

すべての市民が障がいの有無によって分け隔てられることなく、だれもが互いに人格と個性を尊重し共生する社会（共生社会）の実現を目指して、障がいへの理解促進と権利擁護を推進します。

(2)施策の体系



①障がいのある人に対する理解の促進

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
健康福祉政策課	心のバリアフリー	車いすユーザーが多数派である架空の世界を通じて、「社会が作り出す障がいとは何か」を問いかける体験イベント「バリアフルレストランinくまもと」を開催し、心のバリアフリーの推進を図った。 開催日：令和6年10月14日（祝）～10月15日（火） 場 所：熊本城ホールエントランスロビー	3,000	体験型であることで、効果的に働きかけることができた。今後は、心のバリアフリーの意識を早期に醸成するため、教育委員会、学校現場と連携し、小学生から高校生までを主な対象として、事前・事後授業を含む学習プログラムの構築・展開を目指す。
障がい福祉課	障がい者理解促進事業（障がい者サポーター研修）	障がいや障がいのある方に対する理解促進を図るため、平成25年度に発足した「障がい者サポーター制度」を推進し、障がい者サポーター研修会やワークショップ等を開催するとともに、市職員向け研修会及び出前講座等を実施する。 サポーター研修のR6年度受講者数：2,735名。	1,288	企業や教育機関等に対し、障がい者サポーター研修出前講座を実施したことにより、市民の障がい福祉に関する理解促進を図ることができた。今後も、熊本市障がい者相談支援センター等と連携して研修を実施することで、障がい者への具体的な支援を学ぶ機会を提供する。

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
障がい福祉課	障がい者理解促進事業 (心の輪を広げる体験作文・障害者週間のポスターコンクール)	障がい者に対する理解促進を図るため、市民を対象に「心の輪を広げる体験作文」及び「障害者週間のポスター」を公募・表彰するとともに、各部門1点を内閣府へ推薦する。 障害者週間：12月3日～9日	84	障害者週間の周知や障がい者を含むすべての人たちとの共生社会の実現などの理念について理解促進を図ることができたが、応募数（特にポスター）を増やすため、周知の方法に工夫が必要である。市の広報媒体やSNS等を活用するとともに、学校以外の障害者施設への周知や、障がい者サポーター研修出前講座等の機会を活用し、より多くの市民への情報提供に努める。
人材育成センター	新規採用職員研修 福祉疑似体験	福祉疑似体験を通して障がいのある人の立場になって考え、気持ちを理解する。また、合理的配慮の立場からのサポート方法を学ぶ。 ○アイマスク体験 講師：熊本市社会福祉協議会 ○車椅子体験 講師：ヒューマンネットワーク熊本 ○手話講習 講師：熊本県聴覚障害者情報提供センター所長 小野尚寿 氏 ○講義「障がい者への理解」 熊本市障がい福祉課職員 ○講演「障がいへの合理的配慮」 植田洋平氏、阿曾太一氏 実施日及び場所： 実施日：①令和6年4月11日（木） ②令和6年4月15日（金） 場所：①ナースパワーアリーナ ②国際交流会館 対 象：新規採用職員 参加人：258人	110	障がいによる制約や、バリアフリーの重要性、日常的問題などを体験することで障がいに対する理解や共感を深めた。また、サポート体験を学ぶことで今後の合理的配慮の取組に繋がった。 継続して実施
人材育成センター	階層別研修における内部講師による講義	障がい者への合理的配慮についての知識を身に付け理解を深める 「障がい者に対する合理的配慮」 講師：人事課職員 ・新規採用職員 4月採用：258人 6月採用：8人 10月採用：2人 1月採用：19人 ・主査級昇任者 121名 ・課長級昇任者 68名 ・新任作業長・主任 14人	—	市職員としてまた階層別での適切な人権意識を学び、人権に配慮した業務遂行ができるようになる。 受講後アンケートに、動画視聴による理解度を測る設問を入れ、回答結果を検証し、動画作成担当課にフィードバックする。

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
総合支援課	熊本市立小中学校特別支援学級・特別支援学級・特別支援学校児童生徒作品展 (ハッピースマイル・アートギャラリー) 〈法務省人権啓発活動地方委託事業〉	市立小中学校の特別支援学級・特別支援学校に在籍する児童生徒の絵画、版画、書道、硬筆、工作、作業作品等のほか、参考展示として市内特別支援学校及び福祉サービス事業所等の作品展示等を行っている。 学習成果の発表をとおして、参加者相互の交流を深めるとともに、市民への特別支援教育の理解を広げる内容。 日時：R6.12.13～16（4日間） 会場：熊本城ホールエントランスロビー 出品学校 小学校55校、中学校24校 特別支援学校2校 計81校 出品数：約1,000点 入場者数 3,344人	532	寄せられた感想から、観覧者が、障がいのあるこどもの学校での日常や、作品制作に一生懸命取り組んでいる様子を、作品を通して感じていることがわかる。また、こどもたちが感想を読んだり、評価を受けたりすることで、さらなる作品制作への意欲や、自己有用感の醸成につながっている。
東部公民館	総合的な学習	障がい者サポーター養成講座 障がいを持つ方とどのように接したらよいのかについて学び、実践意欲を高める。 講師：森下 憲司 氏 (熊本市障がい者相談支援センターきらり) 実施日：令和6年9月4日（水） 場所：健軍東小学校 対象者：4年生 参加者：42人	6	クイズ体験、動画視聴などから、子どもたちも考えながら学ぶことができ、視野が広がった。 より深い学びにつなげるために、学年を超えた体系的な学習に取り組んでいきたい。
秋津公民館	「おでかけ公民館」 視覚障がいについての講話・点字体験	視覚障がいの方から視覚障がいについてのお話を聞き、点字体験をすることにより障がい者への理解を深める。 講師：石坂 啓氏（他2名） 実施日：令和6年7月9日（火） 場所：秋津小学校 体育館 対象者：4年生 参加者：105名	27	視覚障がいの方のお話を実際聞くことにより、視覚障がい者の生活について知り、自分にできることを考えるきっかけとなった。 点字ブロックがあるにもかかわらず、自転車等が止められていて視覚障がい者の歩行の妨げになるという事案がある。

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
植木公民館	おでかけ公民館講座	国内外のマラソン大会に挑戦している横田氏より、熊本城マラソンにも出場された講師の常に前向きな生き方に触れることで、自分の事と重ねながら考えていく機会とするとともに、お互いが助け合っていくことが大切であるという思いを深める内容。 演 題：「みんなと同じだったり、違ったりしても一人しかいない大切な私」 講 師：横田 久世 氏 実施日：令和6年11月7日（木） 場 所：吉松小学校 対 象：全児童と保護者 参加人数：177人	14	講師から当事者の思いを聞くことで、自分のこととして捉えることができていた。 今後も継続して啓発の機会を設けていく。
南部公民館	人権啓発講演会	身近な人権課題を提起し、日常生活の中に人権の視点をあてることの大切さを啓発するために、講演会を実施した。 演 題：「一歩踏み出せば自分の笑顔につながる」 講 師：横田 久世 氏 実施日：令和6年9月29日（日） 場 所：南部公民館 ホール 対象者：地域の方々 参加者：約100人	30	横田さんの講演をまた聞きたい、他の人にも聞いてほしいという意見があり、概ね好評な感想が多かった。今後も、教養講演会や主催講座を通して、人権啓発に努めたい。
天明公民館	ハートフル講演会	義足のランナー「横田久世」氏を講師に招き、人生を前向きに生きる姿を体験談などを通して講演。参加者には身近な人権課題を提起し、日常生活の中に人権の視点をあてることの大切さを啓発した。 講師：横田 久世 氏 日時：令和6年12月3日 場所：中緑小学校 対象：児童・保護者・職員・地域の方	30	講演会自体の内容や、講師の講話の進め方が巧みであったこともあり、参加者からは「とても良いお話の内容だった」との意見が多く、当初の開催目的に合った講演会であった。今後も、心のバリアフリーに関する講話や体験を企画し、人権啓発に努めていきたい。
人権教育指導室	高校等4校人権教育研修会	障がいのある人に関する人権についての基本的認識を深め、生徒やその保護者への関わり方についての理解および実践力の向上を図る研修を実施した。 演 題：「困難さを抱える生徒とその保護者の思いに寄り添う教職員の関わりとは」 講 師：井上 裕介 氏 高機能自閉症アスペルガー当事者会シェアハート役員 実施日：令和6年8月23日（金） 場 所：熊本市立必由館高等学校 対象者：必由館高校・千原台高校・総合ビジネス専門学校・平成さくら支援学校の教職員 参加者：137人	15	経験に基づく講話であり、また、講話をもとにした異校種での班別意見交換を行うことで、参加者にとって多くの学びを得た研修となった。他業務のための欠席者が複数あり、欠席者への研修機会の確保および日程調整が必要。 次年度も継続実施の予定であるので、日程調整も含めて実行委員会で検討していく。

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
北部公民館	主催講座	<p>場面緘黙とは、どんな状態なのか、どんな症状なのか、後遺症等、当事者の経験談を聞き、どのように接すればよいのかを学ぶ。</p> <p>講座名：場面緘黙の世界 ～話せない理由、話します～</p> <p>講師：小西 佳太 氏</p> <p>実施日：令和6年7月30日</p> <p>場 所：北部公民館</p> <p>対 象：どなたでも</p> <p>参加人数：37人</p>	6	参加者は、「場面緘黙」について知る機会になった。また、講師の体験に直接触れることで、「場面緘黙」に対する関わり方を学びながら、自身の人権感覚や意識を見つめ直すことができた。
北部公民館	主催講座	<p>全盲のヨットセーラーとして太平洋横断を成功した経験談等を通して、参加者一人ひとりが困難や苦難に立ち向かう勇氣と希望を感じる。</p> <p>講座名：心をありがとうで満たす メディテーションデウス</p> <p>講師：岩本 光弘 氏</p> <p>実施日：令和6年11月21日</p> <p>場 所：北部公民館</p> <p>対 象：どなたでも</p> <p>参加人数：19人</p>	6	日常の中で感謝の力を体験し、困難や苦難に立ち向かう勇氣と希望をもつことができた。
人権政策課	市政だよりへの記事掲載	<p>行事やイベント、事業など熊本市の市政情報を伝えるための広報紙に、人権に関するコラム「くらしの中の人権」を掲載している。基本計画にある20の分野別人権問題などをそれぞれの強化月間（週間）等にあわせて掲載内容を選択している。</p> <p>※市政だより5月号 くらしの中の人権125「障がいのある人に関する人権問題」</p> <p>発行部数 約332,000部 発行回数 毎月1回発行 規格 タブロイド判 全カラー</p>	0	暮らしの中にある身近な人権問題について、わかりやすい言葉で、自分ごととして捉えてもらえるような記事の掲載が必要である。デジタルデバイスに配慮した媒体であり、家庭内で人権について考えていただく機会となるよう継続して実施していく。

②障がいのある人への虐待の防止その他

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
障がい福祉課	障がい者虐待防止研修	<p>障がい者虐待に関する知識と国民の通報義務や通報窓口等について周知することで、障がい者の権利擁護を図るもの。</p> <p>1回目：R6.5.23 放デイ事業所 20名 清水総合出張所にて</p> <p>2回目：R6.8.20 相談支援部会 50名 清水総合出張所にて</p> <p>3回目：R6.10.28 児童発達支援センター16名 事業所にて</p> <p>4回目：R6.11.9 市民後見人養成講座受講者10名 熊本県女性会館</p>	0	<p>障がい者虐待について、改めて支援者間で考える貴重な時間となっている。</p> <p>各事業所内部において、報告・連絡・相談体制がまちまちである。日々の支援を振り返るような習慣や組織づくりを、全事業所に対して促す必要がある。</p> <p>研修の開催は対面方式でもオンライン方式でも研修内容を変えずに実施可能なため、引き続き出前講座として広報して実施する方針である。</p>

③手話言語条例に基づく施策の推進

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
障がい福祉課	熊本市手話言語条例について	<p>ろう者が日常生活及び社会生活を営むことができるよう、市民及び事業者並びに関係団体と連携して手話に関する施策を総合的かつ計画的に推進する</p> <p>・熊本市手話言語条例施策推進委員会を開催し、熊本市手話に関する施策の実施状況等についての報告と意見交換を行った。 開催日：令和7年2月14日（金） 会 場：ウェルバルくまもと</p> <p>・この意見交換等を基に、令和7年3月に熊本市手話に関する施策の推進方針の見直しを実施した。</p>	12	<p>熊本市手話に関する施策の推進方針に基づいた具体的な取り組みの実践に継続して取り組む必要がある。</p> <p>今後は、①推進方針を具体的に進める、②施策推進委員会の年度内に複数回開催を目指す、③色々な事業について企画段階での協議や施策内容について関係機関と相談できる委員会を目指す。</p>

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
龍田公民館	おでかけ公民館講座	<p>2名の講師（手話講師と聴覚に障がいをお持ちの方）が、手話でコミュニケーションを取りながら、聴覚障がいを持つ方の暮らしについて理解を深める内容。日常的な挨拶や子どもたちの名前を指文字や手話で表現を通して体験し、学ぶ内容。</p> <p>講座名：手話指導と交流 講師：小野康二氏、渡邊百代氏</p> <p>実施日：令和6年6月25日 場 所：楠小学校 対 象：4年生 参加人数：43人</p> <p>実施日：令和6年6月21日 場 所：武蔵小学校 対 象：4年生及び教職員 参加人数：59人</p>	12	<p>講師から聴覚障がい者の方の暮らしや思いを聞くことで、障がいをもつ方への理解を深めた。また自分の名前などを手話で表現することの楽しさを学んだ。</p> <p>今後も継続して啓発の機会を設けていく。</p>
飽田公民館	おでかけ公民館講座 飽田東小 4年生	<p>挨拶・簡単な日常会話から、話などを通して手話を学ぶことで、耳の不自由な方のことを理解し共生の心を育てる。</p> <p>講師：田中 みさ代 氏 実施日：令和6年10月3日(木) 9時30分～11時30分 場 所：熊本市立飽田東小学校 音楽室 対 象：飽田東小4年児童と教職員 参加者：90人</p>	6	<p>手話での自己紹介を一人ひとり優しく丁寧に教えられたり、とてもわかりやすかった。こどもたちは干支や数字等の身近な手話を短時間でたくさん覚えることができた。講座後にはこどもが手話の本を借りて練習したり、休み時間にお互いに自己紹介をしあったりと、手話に大変興味を持つ講座となった。</p>
幸田公民館	公民館主催講座 「手話をはじめよう～初心者の方へ～」	<p>手話での自己紹介や挨拶・簡単な日常会話等から、手話資格認定試験に向けた講座内容。</p> <p>講師：田中 みさ代 氏 実施日：令和6年6月21日 7月5、12、19、26日 8月2、8日 【全7回・金曜日】 19時～21時 場 所：幸田公民館 B会議室 対 象：熊本市民 参加者：12人</p>	6	<p>毎年開催しているが、昨年参加された市民も数名参加されていた。仕事で必要という事で参加された看護師もいた。次年度も開催することが必要だと思った。</p>

④障がいのある人の働きやすい職場環境の整備

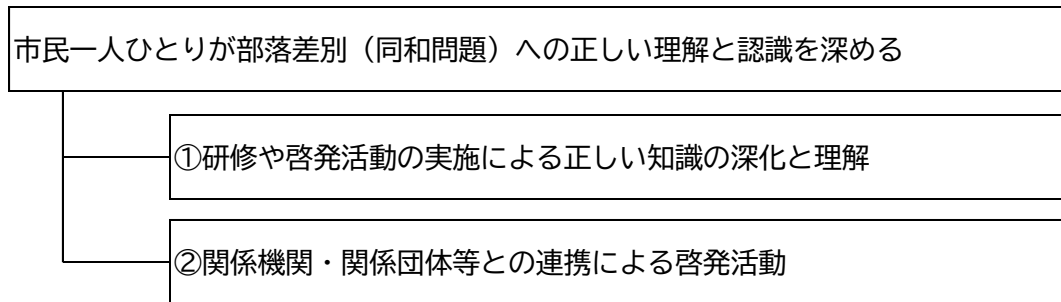
担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
障がい福祉課	障がい者雇用 (チャレンジ 雇用)	障がい者を市の会計年度任用職員として雇用し、一般企業への就職につなげることを目的とする「チャレンジ雇用」を実施し、障がい者の就労の場を提供する。	21,850	就労支援員（ジョブコーチ）を配置することで、障がい者会計年度任用職員の職場定着を図るとともに、任期満了後における一般就労への支援を行うことができた。 課題として障がい者会計年度任用職員の心身状態が不調になった場合に、医療機関等の関係機関や家族等との情報共有及び連携を円滑に行うことのできる体制整備が必要である。 配属課との面談を定期的実施することで、勤務状況を把握するとともに、本人の体調の変化に対し、早期発見・対応できる環境整備を行う。 また、本人の同意のうえ、必要に応じて関係機関との情報共有を図る。
人材育成センター	障がいのある職員への対応研修	職場の管理職や身近で指導する主査・指導員が持つべき必要な知識や障がいの特性に合わせたサポートスキルを学び、「部下育成」と「共に働きやすい職場環境づくり」を目的とする 講師：アビット株式会社 佐伯るみ氏 実施日：令和6年6月28日（金） 場所：市民会館シアーズホーム夢ホール（熊本市市民会館）大会議室 対象： 【必須】障がい枠採用1～7年目の職員が在籍する所属の「所属長」「主査または同僚」 【公募】希望する職員 参加人数：73人	249	受講後アンケートで「個人の資質向上または今後の職務に役立つ」と回答した受講者87%。他課職員との意見交換が今回も好評だった。 「フォローする職員のフォロー」について気づきを得た受講生多数。 一方で、具体的ケーススタディについての要望も複数あり、今後は実務者への講師を依頼。
人材育成センター	多様な人材が能力を發揮できる職場環境づくり研修	様々な障がいのある職員等と共に働く機会が増え、多様な人材が能力を發揮し、誰もが働きやすい職場環境づくりを目指し、管理職として習得しておくべき障がい特性に関する正しい理解や合理的配慮に関する知識を深めることを目的とする。 内 容：DVD動画研修 対 象：課長級職員 377人	0	管理職として習得しておくべき障がい特性に関する正しい理解や合理的配慮に関する知識習得につながった。

5 部落差別(同和問題)

(1)基本方針

地域の実情を踏まえ、国、県をはじめ、関係機関や関係団体等と連携し、家庭、地域、学校、事業所・職場等における教育や研修をとoshi、部落差別（同和問題）に対する正しい理解と認識が得られるよう、人権教育・啓発の取組を進めます。

(2)施策の体系



①研修や啓発活動の実施による正しい知識の深化と理解

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
人権政策課	動画視聴による職員人権研修	部落差別（同和問題）について、正しい理解と知識を深めるために動画視聴による研修を実施 演 題：部落差別（同和問題）に関する職員人権研修 講 師：脇田 五典氏 （元熊本市人権関係登録講師） 実施日：令和7年3月4日～28日 対象者：熊本市職員 参加者：1,968回視聴		部落差別（同和問題）の歴史的背景やこれまでの歩み等を理解するとともに、人権問題に適切に対応することができるよう講師による講義とともに、法律の変遷や事象について、解説を交えた動画を制作した。 令和7年度は、随時視聴できるように再編集をし周知を図っている。 今後も、職員の理解が深まるよう継続して研修を実施していく。
熊本市ふれあい文化センター	映画鑑賞会	文化祭記念映画鑑賞会 作 品：「破戒」（2020年） 実施日：令和7年2月7日（金） 場 所：ふれあい文化センター 対象者：地域住民 参加者：61人		講演会だけでなく、様々な形で人権について考える機会を作りたいと思い、映画鑑賞会を企画した。多くの人が集まっていただき、よかったと思う。今回はアンケートを取らなかったため、次回はアンケートを取り、参加者の意見も聞きたいと思う。

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
植木ふれあい文化センター	人権講演会	講師の学童期から現在までの様々な話を通して、改めて部落差別(同和問題)をはじめ、あらゆる人権課題を自分事として捉える機会を持つために実施 演題：「ムラで生きる」 ～出会いから学んだこと～ 講師：細貝 両作氏 実施日：令和6年7月30日（火） 場所：植木ふれあい文化センター 対象者：市民及び小中学校関係者 参加者：58名	0	実施後のアンケートでは「差別は身近なところにある、それに気づき、なくしていく努力をすべきだ。」などの意見があり新たな発見や、振り返りなどの効果があった。今後も啓発講演会を継続していく。
城南公民館	第4回こころを育てるあったかセミナー（人権教育講演会）	終戦直後の旧満州で、日本史上唯一の国策によって行われた海外移住民「来民開拓団」が大規模な集団自決に追い込まれた史実を通して、こどもたちと共に人権問題について考えていく活動の取り組みに関する講演内容 演 題：「来民開拓団の真相」に学びながら、「開拓慰霊祭のこころ」を受け継ぐ子どもたち 講 師：森山 英治 氏 旧満州来民開拓団遺族会会長 実施日：令和7年2月12日（水） 場 所：城南公民館（学習室1・2） 対 象：どなたでも 参加人数：46人（内オンライン10人）	7	熊本で起きた史実を知らない人も多かった。国の融和政策に動き、命を無くしていった方々の思いと名誉回復のために、人権教育・啓発として教育者としてできる現場の生の声・取組みを示唆していただいた。今後も継続して啓発の機会を設けていく。
北部公民館	人権啓発講演会	戦時中、満蒙開拓団を取り巻く国策と部落差別、276人の子どもや女性、老人たちの集団自決等に焦点を当て熊本県民として過去の惨劇を知り、平和への願いなどの話を聞く内容。 演 題：「来民(くたみ)開拓団の惨劇から問う国策と差別」 講 師：エィミー・ツジモト 国際ジャーナリスト 実施日：令和6年9月29日 場 所：北部公民館 対 象：どなたでも 参加人数：72人	50	身近な人権課題を提起し、日常生活を人権の視点でとらえていくことの大切さを啓発できた。 今後も継続して啓発の機会を設けていく。
人権教育指導室	教頭・幼稚園主任教諭人権教育研修会	部落問題学習について、学校で推進していくために、部落問題学習に造詣の深い講師を招き、講演を行う。 演 題：「改めて部落史に学ぶ～DVD水平社を立ち上げた人々を視聴して～」 講 師：外川 正明 氏 京都教育大学名誉教授、鳥取環境大学名誉教授 実施日：令和6年9月12日（木） 場 所：植木文化ホール 対象者：市立幼稚園の主任教諭 市立学校の教頭 参加者：155人	92	部落問題学習について、社会科を中心とした具体案や実践を聞くことができ、参加者にとって多くの学びがあった。 管理職の人権意識や人権教育の推進を目的とし、次年度も継続して実施する。

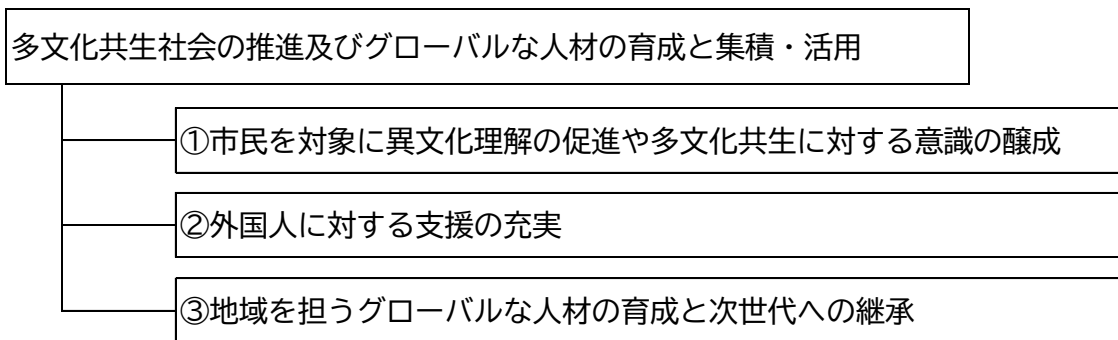
6 外国人に関する人権問題

(1)基本方針

「熊本市国際戦略」中で、地域の国際化を促進するための基本的取組として、多文化共生社会の推進及びグローバルな人材の育成と集積・活用を掲げ、様々な取組を行っていきます。

今後、アフターコロナによる人的交流の再開や台湾の半導体関連企業の熊本進出などを背景として、在住外国人の更なる増加が見込まれるため、外国人が安心して生活することができる環境整備を行い、外国人・日本人ともに、地域社会の一員として安心して暮らしていくことができる多文化共生社会の推進に取り組んでいきます。

(2)施策の体系



①市民を対象に異文化理解の促進や多文化共生に対する意識の醸成

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
国際課	異文化理解講座	熊本市国際交流会館にて異文化理解講座を実施。熊本市国際交流員（CIR）、外国語指導助手（ALT）、留学生、元JICA 海外協力隊員等を講師に迎え、海外の文化や風習、観光等をテーマに、様々な講座を実施。 参加人数の総計：2,069 人	166,049	多種多様な講座を実施し、外国人との交流の機会を創出することにより、異文化理解の促進を進めている。一方、参加者が固定化される傾向があるため、熊本市 LINE への投稿や、Facebook、X など SNS を積極的に活用し、幅広い世代への広報に努める。

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
国際課	多文化共生月間	<p>熊本市国際交流会館において、毎年2月を多文化共生月間と位置付け、下記の事業を実施。</p> <p>○多文化共生シンポジウム 令和7年2月15日（土） 参加人数：92人</p> <p>○多文化共生パネル展 令和7年2月1日（土）～28日（金） 来場者数：約500人</p> <p>○外国人コミュニティイベント 《第1回》「ベトナム」 令和7年2月8日（土） 講師：在熊本ベトナム人協会 参加人数：20人 《第2回》「台湾」 令和7年2月22日（土） 講師：台熊友好会 参加人数：30人</p>	166,049	在住外国人が増加・多様化する中で、本市に居住する外国人を含む全ての人々にとって暮らしやすいまちをめざすため、多文化共生社会の推進に資する事業を継続して実施する。日本人市民の方にも異文化理解の促進や人権尊重意識の醸成に資する啓発を充実していく。
熊本市ふれあい文化センター	出前講座	<p>ふれあい文化センター職員による体験型人権学習。</p> <p>演題：「やさしい日本語」 講師：ふれあい文化センター職員 実施日：令和6年12月13日（金） 場所：ふれあい文化センター 対象者：春竹校区民児協 参加者：27人</p>	0	日本にいる外国の人々が一番分かる言葉が「日本語（ひらがな）」であること。できるだけ平易な言葉を選ぶこと。それが外国人だけでなく、日本人にも「やさしい」言葉になると伝えていきたい。
担当：五福公民館 (中央・大江・五福三館合同)	中央区公民館合同 人権教育啓発講演会 <地域連携市民参加型人権啓発推進事業>	<p>映画上映と講演会 「空飛ぶ金魚と世界のひみつ」は、外国人に関する人権問題、子どもに関する人権問題など様々な人権課題に関する映画である。あわせて脚本家による講演会を実施。</p> <p>講師：栗山 宗大 氏（脚本家） 開催日：令和7年2月23日（日） 開催時間：午前10時～正午 場所：熊本市立大江公民館ホール 対象：地域住民 参加者：84人</p>	250	<p>小さな子どもから高齢者まで楽しみながら人権について考える機会を得ることができた。</p> <p>違いを認め合うこと、思いやりの気持ちを持つことの大切さとむずかしさ、日常の小さな喜びを大切にすることなどについて、みんなで思いを深めることができたと感じた。</p>
人権政策課	市政だよりへの記事掲載	<p>行事やイベント、事業など熊本市の市政情報を伝えるための広報紙に、人権に関するコラム「くらしの中の人権」を掲載している。基本計画にある20の分野別人権問題などをそれぞれの強化月間（週間）等にあわせて掲載内容を選択している。</p> <p>※市政だより9月号 くらしの中の人権129「外国人に関する人権問題」</p> <p>発行部数 約332,000部 発行回数 毎月1回発行 規格 タブロイド判 全カラー</p>	0	<p>暮らしの中にある身近な人権問題について、わかりやすい言葉で、自分ごととして捉えてもらえるような記事の掲載が必要である。</p> <p>デジタルデバイスに配慮した媒体であり、家庭内で人権について考えていただく機会となるよう継続して実施していく。</p>

②外国人に対する支援の充実

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
国際課	熊本市外国人総合相談プラザ運営事業（指定管理事業）	外国人の方の在留手続、雇用、医療、福祉、出産・子育て・教育等の生活全般について、情報提供や相談を行う一元的窓口。 相談場所：熊本市国際交流会館2階 相談対応日：国際交流会館の開館日 ※休館日 第2・第4月曜日 開設時間：午前10時～午後6時 対象者：在住外国人、市民、外国人を受け入れている機関等 相談内容：在留手続、雇用、医療、福祉、出産・子育て、子どもの教育等、生活全般 対応言語：23言語 専門分野の相談 法律相談（熊本県弁護士会） 在留資格相談（熊本県行政書士会） 就職相談（職業紹介事業者） 住まいの相談（熊本市居住支援協議会） 心の相談（臨床心理士） 外国ルーツの子どもの教育相談	166,049	外国人住民等への情報提供や相談を行う一元的窓口として、様々な相談に対応し、解決まで寄り添っている。多岐にわたる相談内容に対して、言語のサポートや専門分野の連携を行い、ワンストップで対応している。相談内容が幅広く多種多様になる中、専門相談等の体制を含め、継続的な体制整備が必要。
国際課	多文化共生事業（留学生交流等拠点設置事業）	熊本県内の留学生が安心して生活できるよう日常生活における様々な疑問の解消や、各種相談に対応するため、熊本大学構内にある大学コンソーシアム熊本事務局にワンストップ窓口を設置する。熊本市国際交流会館にある熊本市外国人総合相談プラザに月1回留学生向けの相談窓口を開設し、各大学の留学生担当窓口とも連携しながら、相談に応じる。	2,500	相談内容が高度化・複雑化するなか、留学生が困ったときに気軽に相談できる窓口としての機能を担い、留学生への支援をきめ細かに行っている。今後とも継続して周知活動を行うとともに、留学生のネットワークのさらなる構築、拡大をしていく必要がある。

③地域を担うグローバルな人材の育成と次世代への継承

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
地域教育推進課	熊本市・ハイデルベルク市青少年交流事業	熊本市青少年交流団をハイデルベルク市へ派遣し、ハイデルベルク市青少年交流団と様々な交流活動プログラムを実施した。 日時：令和6年8月1日～8月10日 参加者：18名 （熊本市内の高校に在学する高校生14名、役職員4名）	7,195	ホームステイや交流活動プログラムを通じて、本市の青少年に異文化に対する理解を深めてもらうとともに、広い国際的視野を身に付けた人材の育成を図る。

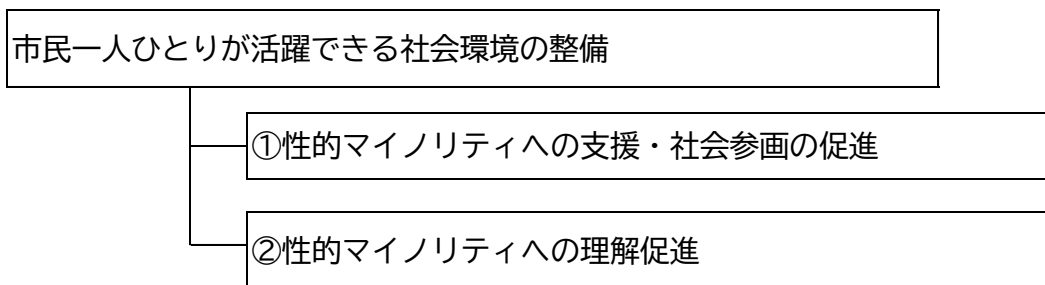
7 性的マイノリティに関する人権問題

(1)基本方針

性的指向や性自認が非典型的であることにより生きづらさを抱え、困難な状況に置かれている市民がいます。

このような方々に対する支援や、積極的に社会参画できる機会の確保は、当事者の社会的・経済的自立や健康づくりに欠かせないものです。さらには、社会における多様性の尊重とともに持続可能な社会の実現につながるものです。このことから、様々な困難を抱えた方々が安心して暮らせる環境の整備に取り組みます。

(2)施策の体系



①性的マイノリティへの支援・社会参画の促進

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
城南 公民館	第1回こころを育てるあつたかセミナー (人権教育講演会)	セクシュアルマイノリティの方々にとっても住みやすい熊本にするため活動されている「くまにじ」の取り組みとLGBTQ+について基礎知識や現在の問題点、注目点について考えていく講話内容 演 題：LGBTQ+の基礎知識と最近のこと 講 師：吉村 千恵 氏 実施日：令和6年7月30日（火） 場 所：城南公民館（学習室1・2） 対 象：どなたでも 参加人数：45人 （内オンライン参加15人）	7	講師当事者の思いを聞くことで、自分のこととして捉えることができていることが実施後のアンケート回答からわかる。性に対する捉え方を統一的に考えるのではなく、人それぞれの性格と同じように性の「多様性」という認識が大切なことを学んでいた。今後も継続して啓発の機会を設けていく。

②性的マイノリティへの理解促進

担当課(室)	事業名	内容	経費(千円)	効果及び課題と方向性
男女共同参画課	性的マイノリティ理解促進	<p>①熊本市パートナーシップ宣誓制度の運用(宣誓数7件)</p> <p>②性的マイノリティに関する出前講座の実施(2回、受講者計29名)</p> <p>③性の多様性に関する職員研修の開催 講師：阪部 すみと氏 Tsunagaryオフィス合同会社COO 参加者数 当日参加119名 動画視聴1,921名)</p> <p>④市民向けLGBTQ+に関する講座の開催 講師：南 弘一氏 熊本市立千原台高等学校校長 参加者数 22名</p> <p>⑤LGBT等の性的マイノリティ当事者・支援団体と市関係課との意見交換会の開催</p>	158	今後も引き続き、職員研修や出前講座などを開催し、性の多様性に関する理解促進に取り組む。
人権教育指導室	校長・園長人権教育研修会	<p>性の多様性について、その理論と学校教育を中心とした具体的な取組についての講演会を実施。</p> <p>演 題：「性の多様性をめぐる学校教育の課題」 講 師：渡辺 大輔 氏 埼玉大学ダイバーシティ推進センター准教授</p> <p>実施日：令和6年6月4日(火) 場 所：国際交流会館 対象者：市立幼稚園・学校の園長・校長 参加者：145人</p>	159	<p>性の多様性について、改めて考える貴重な機会となった。園や学校現場での状況を踏まえた具体的な内容や実践例は、今後の取組の参考となったと同時に、一人一人の生き方を考える機会にもなった。</p> <p>管理職の人権意識や人権教育の推進を目的とし、次年度も継続して実施する。</p>
人権教育指導室	教育委員会事務局職員等人権啓発研修会	<p>性の多様性について、その理論と学校教育を中心とした具体的な取組についての講演会を実施。</p> <p>演 題：「性の多様性をめぐる学校教育の課題」 講 師：渡辺 大輔 氏</p> <p>実施日：令和6年6月4日(火) 場 所：国際交流会館 対象者：教育委員会事務局職員 参加者：142人</p>	28	<p>性の多様性について、改めて考える貴重な機会となった。園や学校現場での状況を踏まえた具体的な内容や実践例は、今後の取組の参考となったと同時に、一人一人の生き方を考える機会にもなった。</p> <p>次年度も継続して実施する。</p>

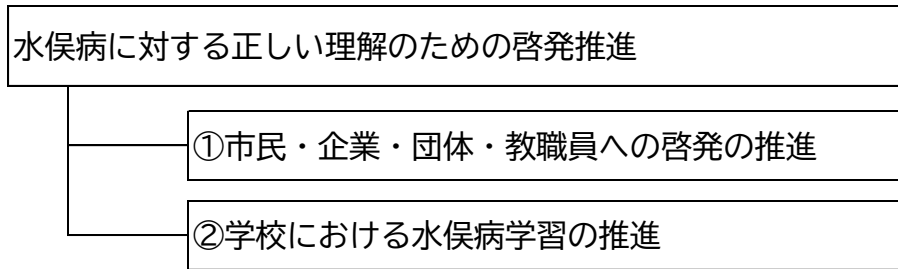
担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
人権政策課	市政だよりへの記事掲載	<p>行事やイベント、事業など熊本市の市政情報を伝えるための広報紙に、人権に関するコラム「暮らしの中の人権」を掲載している。基本計画にある20の分野別人権問題などをそれぞれの強化月間（週間）等にあわせて掲載内容を選択している。</p> <p>※市政だより4月号 暮らしの中の人権124「性的マイノリティに関する人権問題」</p> <p>発行部数 約332,000部 発行回数 毎月1回発行 規格 タブロイド判 全カラー</p>	0	<p>暮らしの中にある身近な人権問題について、わかりやすい言葉で、自分ごととして捉えてもらえるような記事の掲載が必要である。</p> <p>デジタルデバイスに配慮した媒体であり、家庭内で人権について考えていただく機会となるよう継続して実施していく。</p>

8 水俣病に関する人権問題

(1)基本方針

偏見や差別の解消のためには、正しい知識を広め、理解を深めていくことが不可欠であり、継続して水俣病の情報や教訓、発生地域の再生状況等を広く発信していくため、講演会等の啓発活動に取り組みます。

(2)施策の体系



①市民・企業・団体・教職員への啓発の推進

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
人権政策課 (熊本市人権啓発市民協議会)	水俣病に関する現地研修会	水俣病に関する問題について知識や理解を深めるため、水俣病歴史考証館やその周辺を訪れ、語り部の講話の聴講や当事者との交流を行う事業 実施日：令和6年11月24日（日） 場 所：水俣病歴史考証館 百間排水口、慰霊碑 ほか 対象者：市民及び人権協会員 参加者：23人	297	実施後のアンケートでは、「テレビニュース等では知り得なかった事を学ぶことができた」や「当事者の『水俣病を忘れないで』という言葉が心に残った」といった現地研修ならではの意見があった。 日曜日に実施したため親子でも参加もあった。今後も参加者の増加につなげるために創意工夫して実施していく。
城南 公民館	第3回こころを育てるあつたかセミナー (人権教育講演会)	講師の実体験から、水俣の人たちの生活の様子や、水俣病発生後の患者の方の苦しみ、差別のつらさなどを知ることを通して、人権問題について考えていく講演内容 演 題：水俣病患者家族に生まれて 講 師：杉本 肇 氏 水俣病資料館語り部 実施日：令和6年11月12日（火） 場 所：城南公民館（学習室1・2） 対 象：どなたでも 参加人数：65人 (内オンライン参加11人)	7	講師当事者や家族の思いを通して、また水俣病を科学的視点から事実を知り学ぶことから水俣病問題に対する人権意識の向上が図られた。参加者は当時の差別的発言や態度に憤りを感じつつ、自分だったらどういう言動ができたのか真摯に考えることができた。今後も継続して啓発の機会を設けていく。

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
人権政策課	市政だよりへの記事掲載	<p>行事やイベント、事業など熊本市の市政情報を伝えるための広報紙に、人権に関するコラム「くらしの中の人権」を掲載している。基本計画にある20の分野別人権問題などをそれぞれの強化月間（週間）等にあわせて掲載内容を選択している。</p> <p>※市政だより10月号 くらしの中の人権130「水俣病に関する人権問題」</p> <p>発行部数 約332,000部 発行回数 毎月1回発行 規格 タブロイド判 全カラー</p>	0	<p>暮らしの中にある身近な人権問題について、わかりやすい言葉で、自分ごととして捉えてもらえるような記事の掲載が必要である。</p> <p>デジタルデバイドに配慮した媒体であり、家庭内で人権について考えていただく機会となるよう継続して実施していく。</p>

②学校における水俣病学習の推進

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
教育委員会事務局 指導課	水俣に学ぶ肥後っ子教室	<p>公害について学ぶ小学5年生が、公害被害から環境再生へと立ち上がる水俣を現地訪問することにより、体験を通して学ぶ。</p> <p>令和6年度は、市内全小学校（92校）の5年生が水俣を訪問し、語り部講話、環境センターや水俣病資料館の見学等、実際に体感することで学びを深めた。また各学校において、事前・事後学習を含めた学習内容の充実を図った。</p> <p>※本事業は熊本県教育委員会と連携し「環境立県くまもと」づくりの担い手である子どもたちの育成に向け取り組んでいるものである。</p>	20550 ※移動のためのバス代を県が1/2負担し、残りの1/2は個人負担。	<p>児童に水俣病への正しい理解を図り、差別や偏見を許さない心情や態度を育むとともに、環境問題の解決に意欲的に関わろうとする態度の育成に繋がった。</p> <p>今後も県と連携して現地訪問を継続し、自己の生き方にもつながる学習を行っていく。</p>
五福公民館	ハートフル講演会	<p>児童に向けて、自分の生い立ちから今までの暮らしの中で体験してきたことを語られた。なぜ水俣病の学習をするのかを考え、「知ること」の大切さの説明とともに、水俣病を正しく理解し、未来のあるべき姿を考えていくヒントを示された。</p> <p>講師：杉本 肇 氏 実施日：令和6年7月9日（土） 9時30分 ～11時30分 場所：熊本市立春竹小学校 音楽室 対象：春竹小学校児童と地域住民 参加者：114人</p>	7	<p>参加した児童は、「想像力と思いやり」が大切であり、差別と区別の違いにふれたり、自分の目や耳で知ろうとすることが大事だということ学んだ。</p>

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
清水公民館	ハートフル講演会	<p>水俣病発生当時、漁師を生業としていた家族の一員として体験したことや想いを話された。「あなたの周りの環境のことや身の回りで起こりうる差別のことを想像してみてください」と優しく語られた。</p> <p>講師：杉本 肇 氏 実施日：令和6年10月10日(木) 13時55分～14時40分 場 所：熊本市立高平台小学校体育館 対 象：高平台小児童と教職員、 地域住民 参加者：108人</p>	7	<p>参加者は特に「患者に対する差別が辛かった」という講師の体験話に聞き入っていた。</p> <p>参加者の人権感覚を高め、今後の生き方や考え方に関する指標を示してもらった講演だった。</p>
植木公民館	おでかけ公民館講座、ハートフル講演会	<p>講師の実体験から、水俣の人たちの生活の様子や、水俣病発生後の患者の方の苦しみ、差別のつらさなどを知る内容。</p> <p>演 題：「みなまたから学ぶ」 講 師：杉本 肇 氏 実施日：令和6年7月10日（水） 場 所：田原小学校 対 象：小学校5年生 参加人数：34人</p>	7	<p>講師から当事者の思いを聞くことで、自分のこととして捉えることができていた。</p> <p>今後も継続して啓発の機会を設けていく。</p>
熊本市ふれあい文化センター	教養講演会	<p>語り部の方をお招きし、水俣の当時から現在までについて話を聞く講演会を実施。</p> <p>演 題：「水俣から未来へ」 講 師：杉 本肇 氏 実施日：令和6年10月10日（木） 場 所：ふれあい文化センター 対象者：本荘小5年生と地域住民 参加者：36人</p>	7	<p>「水俣病について原因等を分かりやすく話していただき、大変有意義だった。実体験に基づいて話されたので大変説得力があった。」等、真実を知り、自分だったら、これからどうしていくか等、自分のこととして考えるきっかけになったと思う。</p>

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
大江公民館	ハートフル講演会	<p>水俣病についての伝え手を講師に招き、水俣病の学習の意義を考え、水俣病を正しく理解し、水俣病が起こった背景や人権問題についての講演会を実施。</p> <p>演 題：ハートフル講演会 講 師：三枝 三七子 氏 絵本作家</p> <p>実施日：令和6年11月6日（水） 場 所：白山小学校 対象者：5年生と教職員・保護者 参加者：108人</p> <p>演実施日：令和6年11月11日（月） 場 所：大江小学校 対象者：5年生と教職員・保護者 参加者：135人</p>	14	<p>絵本作家である講師の話聞くことで、水俣病の原因について正しく理解し、これからの生活にかかしていく方法を考えることができた。</p> <p>今後も継続して啓発の機会を設けていく。</p>
五福公民館	ハートフル講演会	<p>講話と「みなまたの木」の読み聞かせがあった。三枝さんが、水俣病について学ぶことになったことや水俣病について、特に差別偏見との闘い、原田正純先生との出会いについて語られた。</p> <p>講 師：三枝 三七子 氏 実施日：令和6年7月9日（土） 13時25分 ～ 14時55分 場 所：熊本市立一新小学校視聴覚室 対 象：一新小学校児童と地域住民 参加者：73人</p>	7	<p>自分たちの生活がいろいろな人の思いの上に成り立っていること、他の人に関心を持つことの大切さについて学んだことで、参加者は自分の生活を考えるきっかけを持つことができた。</p>
東部公民館	ハートフル講演会	<p>みなまたの木の読み聞かせを通して、みなまた病についての理解を深め、相手を思いやる心情をはぐくむ</p> <p>演 題：「みなまたから、学ぶ思いやりの大切さ」</p> <p>講 師：三枝 三七子 氏 実施日：①令和6年7月8日（月） ②令和6年7月12日（金） 場 所：①泉ヶ丘小学校 ②月出小学校 対象者：5年生と保護者 参加者：①71人 ②77人</p>	14	<p>事前学習での断片的な知識が体験により語られる内容によりこどもの心の中に響いた。さらには見学旅行を通し、よりみなまたのことを考えることができるようになった。</p> <p>今後も継続して取り組みたい。</p>

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
秋津公民館	ハートフル講演会	<p>なぜ水俣病を学習するのかを考えるとともに、水俣病を正しく理解し、これからの未来のあるべき姿を考える。</p> <p>演題：「いまを生きる私たちが水俣病を学ぶということ」 講師：三枝 三七子氏 実施日：令和6年7月11日（木） 場所：桜木東小学校 対象者：5年生 参加者：92名</p>	7	<p>水俣病の原因となった物質の由来とチッソ工場の不作為について知り、水俣病について正しく知ってほしいという思いから絵本を書くという行動を起こした講師に心を打たれ、これからの自分たちにできることについて考えることができた。毎年小学5年生を対象に「水俣に学ぶ肥後っ子教室」が行われているが、差別がいまだになくならない現状がある。</p>
秋津公民館	ハートフル講演会	<p>なぜ水俣病を学習するのかを考えるとともに、水俣病を正しく理解し、これからの未来のあるべき姿を考える。</p> <p>演題：「いまを生きる私たちが水俣病を学ぶということ」 講師：三枝 三七子氏 実施日：令和6年11月8日（金） 場所：桜木中学校 対象者：1年生と保護者 参加者：169名</p>	7	<p>小学5年生のときに水俣病について学んでいる生徒たちだったが、講師の三枝氏が中学生向けに内容を考えて話をされたので、小学校で学習した内容を振り返るとともに、さらに詳しく学習することができた。水俣の学習を土台に、さらに他の人権課題についても考えることができた。</p>
西部公民館	ハートフル講演会	<p>水俣病がいかんにして発生し、そのことでどんな人々が苦しんだのか、絵本「みなまたの木」作者の講師を迎えてお話しいただくもの</p> <p>演 題：水俣病をめぐる人権 講 師：三枝 三七子 氏 実施日：令和6年7月10日（水） 場 所：高橋小学校 5年生教室 対象者：高橋小5年生と保護者 参加者：22人</p>	7	<p>水俣病の学習に臨む導入として行われたが、こどもたちがこれから理解を深めるにあたっての視点をいただくことができた。</p>

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
西部公民館	ハートフル講演会	<p>水俣病がいかにして発生し、そのことでどんな人々が苦しんだのか、絵本「みなまたの木」作者の講師を迎えてお話しいただくもの</p> <p>演 題：水俣病をめぐる人権 講 師：三枝 三七子 氏 実施日：令和6年7月11日（木） 場 所：小島小学校 5年生教室 対象者：小島小5年生と保護者 参加者：44人</p> <p>実施日：令和6年11月8日（金） 場 所：池上小学校 音楽室 対象者：池上小5年生と保護者 参加者：59人</p>	7	水俣病学習のまとめのタイミングでの講演会であった。学習の終わりに質問をするなど、こどもたちの学習の成果が表れた講師とのやり取りがあった。
花園まちづくりセンター・公民館	ハートフル講演会	<p>みなまたの絵本作家で有名な三枝さんに水俣のことを聴き、実際にお話をお聞きすることで、学習を深める。</p> <p>講師：三枝 三七子 氏 実施日：令和6年11月7日（木） 場所：花園小学校 対象者：5年生児童・教職員・保護者 参加人数63人</p>	7	水俣の現地学習の事後学習としての人権学習を深めることができた。令和7年度においても管轄小学校へ実施の呼びかけを積極的に行っていく。
南部公民館	ハートフル講演会	<p>水俣病についての伝え手を講師に招き、水俣病が起こった背景や人権問題についての講演会を実施。</p> <p>演 題：「いまを生きる私たちが水俣病を学ぶということ」 講 師：三枝 三七子 氏 実施日：令和6年7月8日（月） 場 所：日吉東小学校 対象者：5年生と保護者 参加者：100人</p>	14	三枝さんが水俣病について学ぶことになったきっかけや、水俣病について、差別偏見との闘い、ご自身の思いを含めてストレートに語りかけていただいた。こどもたちにとってわかりやすく、三枝さんの思いがすーっと入るような語り方で、とても感銘を受けた児童が多かった。

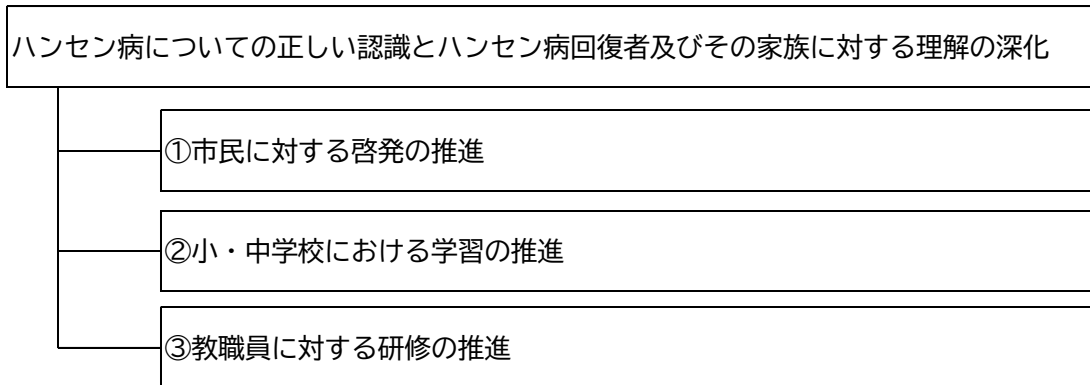
担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
城南 公民館	おでかけ公民館講座、ハートフル講演会	なぜ水俣病を学習するのかを考えるとともに、水俣病を正しく理解し、これからの未来のあるべき姿を考えていく講話内容 演題：「いまを生きる私たちが水俣病を学ぶということ」 講師：三枝 三七子 氏 実施日：令和6年11月11日（月） 場所：隈庄小学校 対象者：5年生 参加者：129名（+教職員6人）	7	水俣病の原因となった物質の由来とチッソ工場の不作為について知り、水俣病について正しく知ってほしいという思いから絵本を書くという行動を起こした講師に心を打たれ、これからの自分たちにできることについて考えることができた。毎年小学5年生を対象に「水俣に学ぶ肥後っ子教室」が行われているが、差別が今だになくなるという現状がある。
龍田公民館	おでかけ公民館講座、ハートフル講演会	講師が「みなまたの木」の絵本を書くことになった体験談を通して、水俣に住む方々の生活の様子や歴史、水俣病発生後の患者の方が受けた差別の苦しみなどを 知る内容。 演 題：「水俣病をめぐる人権問題についての学習」 講 師：三枝 三七子 氏 実施日：令和6年7月9日 場 所：龍田小学校 対 象：小学校5年生及び教職員 参加人数：113人	7	講師の水俣との出会いや「みなまたの木」の朗読等を聞き、児童は水俣病についての理解を深めた。 今後も継続して啓発の機会を設けていく。
北部公民館	おでかけ公民館講座、ハートフル講演会	「水俣病」と向き合い、差別と向き合い克服していく中で、ふるさと水俣を誇れるようになられた講師の生きざまに触れる。 また、「ヒメタツ」を通して、再生した水俣の海の生き物の「命」を守り育むという視点での話を聞く。 演 題：「水俣の海で命と出合いを」～再生のシンボル ヒメタツ～ 講 師：森下 誠 氏（ダイバー） 実施日：令和6年12月10日 場 所：西里小学校 対 象：小学校5年生及び教職員、保護者、地域の方 参加人数：70人	21	講師の生き方に直接触れ、参加者一人一人が自分のくらしと重ねて、しっかりと学習できた。 今後も継続して啓発の機会を設けていく。

9 ハンセン病回復者とその家族に関する人権問題

(1)基本方針

ハンセン病回復者及びその家族が、良好かつ平穏な生活を営むことができるよう、人権を尊重する視点に立ったあらゆる場における人権教育・啓発への取組を推進します。

(2)施策の体系



①市民に対する啓発の推進

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
人権政策課 (熊本市人権啓発市民協議会)	第67回ヒューマンライツ・シアター	言葉では伝えきれない感情や状況を共有し、人権問題を身近に感じ、考えてもらう機会とするため、人権に関する映画会（ヒューマンライツ・シアター）を実施。 【内容】 ハンセン病回復者が、差別を受けながらも尊厳を失わず生きようとする姿を描いた物語 作 品：「あん」 実施日：令和7年2月23日（日・祝） 午前と午後の2回 場 所：Denkikan 対象者：どなたでも 参加者：219人	451	実施にあたっては、通信制高校のボランティアの生徒に協力していただいた。 「何者になれなくても、人は生まれてきた意味がある」という台詞に人間の尊厳について深く考えさせられた」など人権意識の高揚につながるような意見があった。 引き続き、ニーズや社会情勢に沿った映画の選定に努め、実施していきたい。
人権政策課 (熊本市人権啓発市民協議会)	ハンセン病に関する現地研修会	ハンセン病に関する問題について知識や理解を深めるため、菊池恵楓園歴史資料館やゆかりの地を訪れ、当事者からの講義を聴講する事業 実施日：令和7年1月23日（木） 場 所：菊池恵楓園歴史資料館 リデル、ライト両女子記念館 本妙寺 対象者：市民及び人権協会員 参加者：16人	202	実施後のアンケートでは、「当事者の声を聴くことができ過酷な実態を知ることができた」「展示は見ごたえがあった」といった現地研修ならではの意見があった。 関係機関等への働きかけや広報を工夫するなどして参加者の増加につなげていく。

③教職員に対する研修の推進

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
人権教育指導室	ハンセン病をめぐると人権研修会（菊池恵楓園現地研修会）	<p>ハンセン病をめぐると人権についての基本的認識を深め、人権教育推進に向けた資質及び実践的指導力向上を目指し、菊池恵楓園でのフィールドワークおよび講話による研修会を実施した。</p> <p>演 題：「歴史的・医学的・社会的知見から、ハンセン病問題を考える」</p> <p>講 師：太田 明 氏 菊池恵楓園入所者自治会 会長代行</p> <p>実施日：令和6年8月20日（火）</p> <p>場 所：国立療養所菊池恵楓園</p> <p>対 象：市立幼稚園・学校の教職員</p> <p>参加者：146人</p>	3	<p>現地でフィールドワークを行い、資料館で学び、当事者からの話を聞くということで、学びを深め、こどもたちへ伝えていく意識を高める参加者が多かった。</p> <p>今後持続可能な研修の土台を作っていく必要がある。様々な知識や当事者の思いを享受し、皆で今後の活用を考えるこの研修の在り方を継続していきたい。</p>

④その他

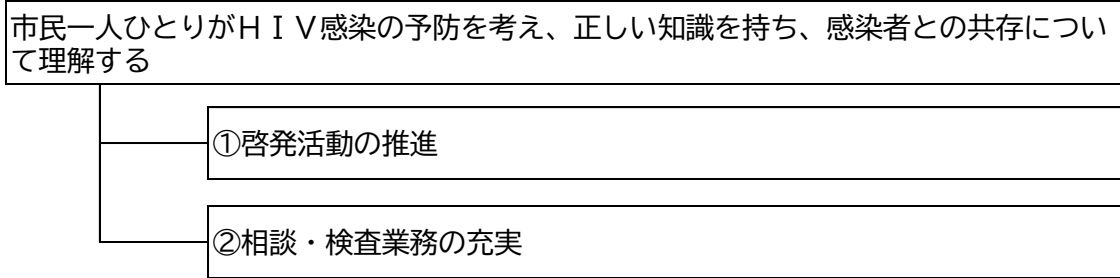
担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
健康福祉政策課	ハンセン病問題に関する職員研修	<p>ハンセン病についての正しい認識と理解を深めるための取組として、職員に対する動画研修及びアンケートを実施した。</p> <p>講 師：西 章男 氏 りんどう相談支援センター 相談員</p> <p>実施期間：令和7年3月5日（水） ～令和7年4月30日（水）</p> <p>対 象：本市職員</p> <p>受講者数：998人</p>	0	<p>実施後のアンケートでは「改めてハンセン病について正しく理解する機会となった」「自分事として考えるきっかけとなった」といった意見があり、研修により、ハンセン病問題に対する理解が深まるとともに受講者の人権意識が向上した。</p> <p>アンケートでは、とても有意義だったとの意見が寄せられているが、視聴割合が低いため、実施時期や周知方法を見直し、参加者の増加に努める。</p>

10 エイズ患者やHIV(エイズウイルス)感染者に関する人権問題

(1)基本方針

感染症の患者等の人権を尊重するという視点に立ち、関係行政機関や民間団体等とも連携しつつ、家庭、地域、学校、職場等のあらゆる場において、正しい知識の普及・啓発の取組を進めていきます。

(2)施策の体系



①啓発活動の推進

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
感染症予防課	エイズ及び性感染症対策事業	①エイズ/HIVについての正しい認識と理解を深めるための取組として、市内の中学校において出前講座を実施。 講 師：感染症予防課職員 実施日：令和6年7月18日（木） 9月26日（木） 11月1（金）、27日（水） 場 所：長嶺中学校ほか3校 対 象：中学3年生および教職員 参加人数：計1,005人	925	エイズ/HIVに対する差別や偏見をなくすことを目的に教育・啓発を実施した。 古い知識や誤った認識をしている人が少なくなかったことから、今後も継続して取り組んでいく必要がある。
感染症予防課	エイズ及び性感染症対策事業	②エイズ/HIVについての正しい認識と理解を深めるための取組として、市内の専門学校において講演会を実施。 講 師：田畑 愛 氏 （フォーシーズンズレディースクリニック院長） 実施日：令和6年7月24日（水） 場 所：モアヘアメイクカレッジ 対 象：学生及び教職員 参加人数：63人 講 師：平山 英雄 氏 （平山泌尿器科医院、ひらやまクリニック理事長） 実施日：令和6年12月10日（火） 場 所：市立総合ビジネス専門学校 対 象：学生及び教職員 参加人数：82人		

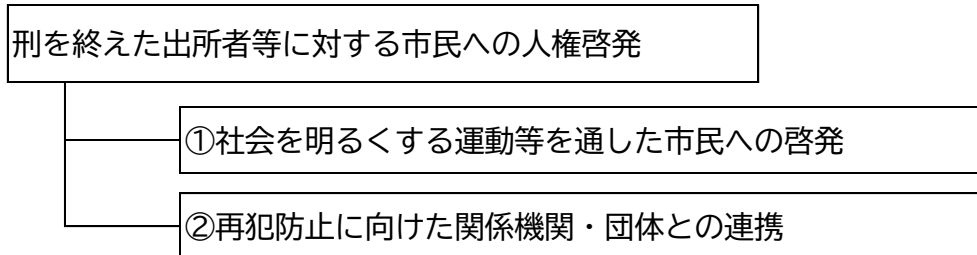
担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
感染症予防課	エイズ及び性感染症対策事業	③ラジオ、市政だより、市ホームページ、市公式LINE、市公式X(Twitter)を利用した情報発信。	前ページからのつづき	前ページからの続き
感染症予防課	エイズ及び性感染症対策事業	④「HIV検査普及週間」及び「世界エイズデー」に合わせて、啓発パネル展を実施。 実施日：令和6年5月27日(月)～6月7日(金) 11月21日(木)～12月5日(木) 場 所：ウェルパルクまもと1階 エントランスホール		
感染症予防課	エイズ及び性感染症対策事業	⑤「HIV検査普及週間」及び「世界エイズデー」に合わせて、熊本城天守閣カラーライトアップ（赤色）を実施。 実施日：令和6年6月1日（土） 12月1日（日）		
感染症予防課	エイズ及び性感染症対策事業	⑥熊本保健科学大学学園祭にブースを出展し、エイズ/HIVに関するキャンペーンを実施。 実施日：令和6年10月19日（土） 場 所：熊本保健科学大学 内 容：エイズ/HIVに関するクイズやゲーム、パネル展示、リーフレット等の啓発物配布		
感染症予防課	エイズ及び性感染症対策事業	⑦はたちの記念式典会場にブースを設置し、啓発ポスターの掲示、啓発リーフレット等の配布。 実施日：令和7年1月13日（月） 場 所：熊本城ホール 4階ホワイエ 内 容：エイズ/HIVに関するパネル展示、リーフレット等の啓発物配布		
人権政策課	市政だよりへの記事掲載	行事やイベント、事業など熊本市の市政情報を伝えるための広報紙に、人権に関するコラム「くらしの中の人権」を掲載している。基本計画にある20の分野別人権問題などをそれぞれの強化月間（週間）等にあわせて掲載内容を選択している。 ※市政だより1月号 くらしの中の人権133「エイズ患者やHIV（エイズウイルス）感染者に関する人権問題」 発行部数 約332,000部 発行回数 毎月1回発行 規格 タブロイド判 全カラー	○	暮らしの中にある身近な人権問題について、わかりやすい言葉で、自分ごととして捉えてもらえるような記事の掲載が必要である。 デジタルデバイスに配慮した媒体であり、家庭内で人権について考えていただく機会となるよう継続して実施していく。

11 刑を終えた出所者等に関する人権問題

(1)基本方針

刑を終えた出所者等が真に更生し、社会の一員として円滑な生活を営むことができるように、市民の理解のための人権啓発に取り組みます。また、出所者等の家族の人権が侵害されないよう、啓発に取り組みます。

(2)施策の体系



①社会を明るくする運動等を通じた市民への啓発

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
生活安全課	第75回”社会を明るくする運動”	<p>すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築くための全国的な活動。</p> <p>「第75回”社会を明るくする運動”熊本市推進委員会」での啓発活動 ※保護観察所や保護司会等の連携のもと、取組を実施。</p> <p>①第75回”社会を明るくする運動”熊本市推進大会の開催 ②市庁舎1階での啓発パネル展示 ③熊本城天守閣ライトアップ ④市政だより、ホームページ、LINE、ラジオによる広報 ⑥ロアッソ試合会場での啓発</p>		<p>犯罪や非行防止及び更生保護に関する市民への周知が図られた。</p> <p>○ 今後も関係団体等と連携し広報啓発に努め、より多くの市民に本運動への関心と理解を深めていただく。</p>
人権政策課	市政だよりへの記事掲載	<p>行事やイベント、事業など熊本市の市政情報を伝えるための広報紙に、人権に関するコラム「くらしの中の人権」を掲載している。基本計画にある20の分野別人権問題などをそれぞれの強化月間（週間）等にあわせて掲載内容を選択している。</p> <p>※市政だより7月号 くらしの中の人権127「刑を終えた出所者等に関する人権問題」</p> <p>発行部数 約332,000部 発行回数 毎月1回発行 規格 タブロイド判 全カラー</p>		<p>暮らしの中にある身近な人権問題について、わかりやすい言葉で、自分ごととして捉えてもらえるような記事の掲載が必要である。</p> <p>○ デジタルデバイスに配慮した媒体であり、家庭内で人権について考えていただく機会となるよう継続して実施していく。</p>

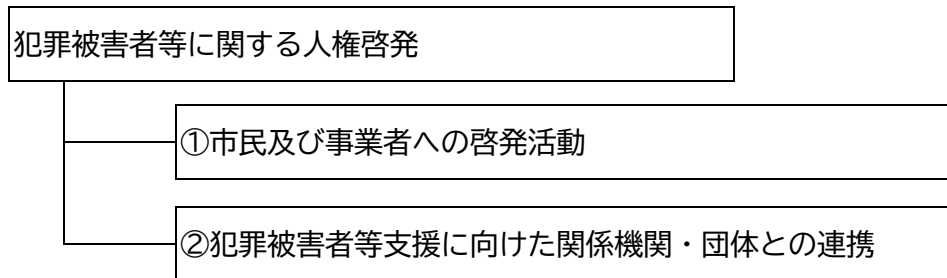
担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
北部公民館	主催講座	<p>刑期を終えた元受刑者の皆さんに対し、社会復帰に向けた指導や援助を行っているNPO法人オリーブの家)の活動の様子や現状の話を聞く。</p> <p>講座名：人はいつからでもやり直しが出来る</p> <p>講 師：青木 康正 氏 NPO法人オリーブの家理事長</p> <p>実施日：令和7年2月26日</p> <p>場 所：北部公民館</p> <p>対 象：どなたでも</p> <p>参加人数：38人</p>	6	<p>元受刑者に対し、社会復帰に向けた指導や援助を行っているNPO法人の活動の様子や現状を知ること、参加者一人ひとりの人権感覚や意識を見つめ直すことができた。</p>

12 犯罪被害者等に関する人権問題

(1)基本方針

関係機関・団体との連携による支援体制の充実と犯罪被害者やその家族に関する啓発に取り組み、犯罪被害者等の人権が尊重される社会をつくります。

(2)施策の体系



①市民及び事業者への啓発活動

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
人権政策課	市政だよりへの記事掲載	<p>行事やイベント、事業など熊本市の市政情報を伝えるための広報紙に、人権に関するコラム「暮らしの中の人権」を掲載している。基本計画にある20の分野別人権問題などをそれぞれの強化月間（週間）等にあわせて掲載内容を選択している。</p> <p>※市政だより11月号 暮らしの中の人権131「犯罪被害者に関する人権問題」</p> <p>発行部数 約332,000部 発行回数 毎月1回発行 規格 タブロイド判 全カラー</p>		<p>暮らしの中にある身近な人権問題について、わかりやすい言葉で、自分ごととして捉えてもらえるような記事の掲載が必要である。</p> <p>○ デジタルデバイスに配慮した媒体であり、家庭内で人権について考えていただく機会となるよう継続して実施していく。</p>

②犯罪被害者等支援に向けた関係機関・団体との連携

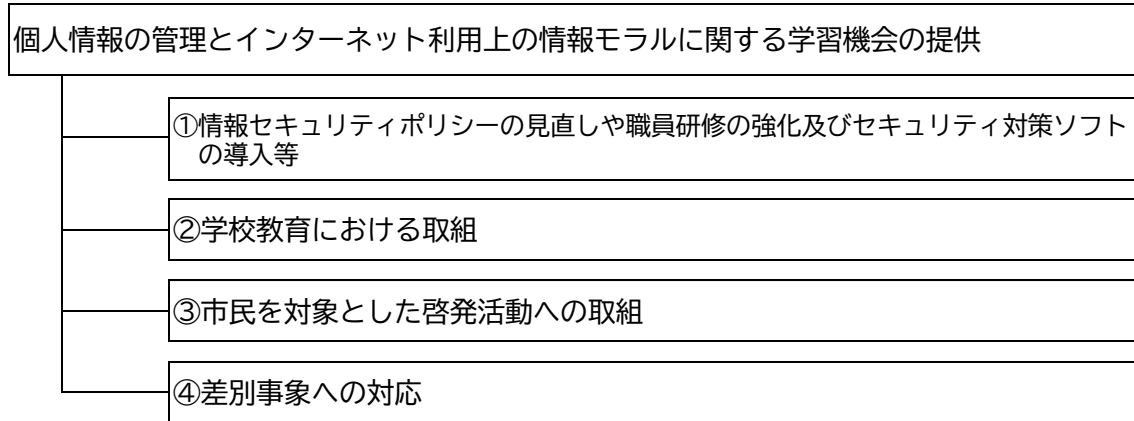
担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
生活安全課	犯罪被害者等 に対する相談 支援	①電話相談、窓口相談 ②公益社団法人くまもと犯罪被害者支援 センターへの運営費補助 ①相談件数（市受付）：26件 ②公益社団法人くまもと犯罪被害者支援 センター相談件数：1,712件	971	本市への相談については 適切な関係機関につなぐ 支援を行ったほか、くま もと被害者支援センター においては、付添い支援 など犯罪被害者等に対す る総合的支援を実施し た。 今後も相談窓口の周知 と、関係機関との連携強 化を図る。
生活安全課	犯罪被害者等 に対する見舞 金等給付	犯罪被害等に対し、遺族見舞金（40万 円）・重傷病等見舞金（20万円）・転 居費用助成金（上限20万円）の支給を 実施。 支給実績（R6） 遺族見舞金：0件 重傷病等見舞金：4件 転居費用助成金：1件	1,000	事件後の経済的負担（失 職や裁判等による）の軽 減を図った。 引き続き、制度の周知を 行っていく。

13 インターネットに関する人権問題

(1)基本方針

セキュリティの強靱化と市民及び学校教育における啓発活動に取り組みます。

(2)施策の体系



②学校教育における取組／③市民を対象とした啓発活動への取組

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
熊本市ふれあい文化センター	教養講演会	<p>かけはしウィークと題して、小中学校とふれあい文化センターが共催で実施した事業の一つ。</p> <p>演 題：「ネット社会をかしこく生きるために」 講 師：戸田俊文氏（真和中/高講師） 実施日：令和6年11月19日（木） 場 所：ふれあい文化センター 対象者：本荘小3、4年生と地域住民 参加者：24人</p>	14	<p>子どもたちは熱心に耳を傾けていた。繰り返し話を聞くことが大切であると思うので、引き続き学校と連携していきたい。</p>
飽田公民館	ハートフル講演会	<p>豊かな人権感覚をもってネット社会に参画することを学び、見えない相手に対する心づかいや情報拡散等 zu 注意する考え方が持てるようにする。</p> <p>演 題：「ネット社会における豊かな人権感覚」 講 師：戸田 俊文氏 実施日：令和6年7月9日(火) 13時30分～15時30分 場 所：飽田東小学校 体育館 対 象：飽田東小5・6年児童と教職員、地域住民 参加者：190人</p>	7	<p>小学校高学年での携帯電話の保有率が高まる中、改めてその便利さの裏に、相手の人権を簡単に傷つけてしまう実態を理解し、自他を大切にするコミュニケーションとは何かを考える場となった講演だった。</p>

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
西部公民館	お出かけ公民館講座	<p>スマートフォンによって子どもたちが直面している事件等を知ること、家庭におけるスマートフォンの使い方について考えるもの。</p> <p>演 題：スマートフォンをめぐる 子どもたちの現状 講 師：戸田 俊文氏 実施日：令和6年7月4日（木） 場 所：小島小学校 各教室 参加者：小島小学校 保護者 82人</p>	14	学級懇談会の前に全教室を電子黒板でつないで講演会を行ったもの。子どもたちのおかれている現状を知り、対策のためには保護者の協力が必要。
龍田公民館	お出かけ公民館講座	<p>普段何気なく使っている携帯・スマホやゲームなどの裏側に潜む危険について知り、形態やスマホとの付き合い方を考え、正しく使うことを学ぶ内容。</p> <p>演 題：家族で取り組もう！メディアコントロール 講 師：松川 由美氏 モバイル・ネットワーク研究所 代表 実施日：令和7年7月5日 場 所：武蔵小学校 対 象：5年生と保護者 参加人数：126人</p>	14	<p>SNSに関する詳しいデータを見聞きすることで、健全に活用することの大切さに気付くことができていた。</p> <p>今後も継続して啓発の機会を設けていく。</p>
植木公民館	お出かけ公民館講座	<p>普段何気なく使っている携帯・スマホやゲームなどの裏側に潜む恐ろしいことを知り、付き合い方を考え正しく使うことを学ぶ内容。</p> <p>演 題：メディアと上手に付き合おう 講 師：牧住 歩実氏 実施日：令和7年1月23日（木） 場 所：桜井小学校 対 象：5年生、6年生児童と保護者 参加人数：54人</p>	10	<p>医療従事の講師から詳しいデータを見聞きすることで、自分のこととして捉えることができていた。</p> <p>今後も継続して啓発の機会を設けていく。</p>
人権政策課	市政だよりへの記事掲載	<p>行事やイベント、事業など熊本市の市政情報を伝えるための広報紙に、人権に関するコラム「くらしの中の人権」を掲載している。基本計画にある20の分野別人権問題などをそれぞれの強化月間（週間）等にあわせて掲載内容を選択している。</p> <p>※市政だより8月号 くらしの中の人権128「インターネットに関する人権問題」</p> <p>発行部数 約332,000部 発行回数 毎月1回発行 規格 タブロイド判 全カラー</p>	0	<p>暮らしの中にある身近な人権問題について、わかりやすい言葉で、自分ごととして捉えてもらえるような記事の掲載が必要である。</p> <p>デジタルデバイドに配慮した媒体であり、家庭内で人権について考えていただく機会となるよう継続して実施していく。</p>

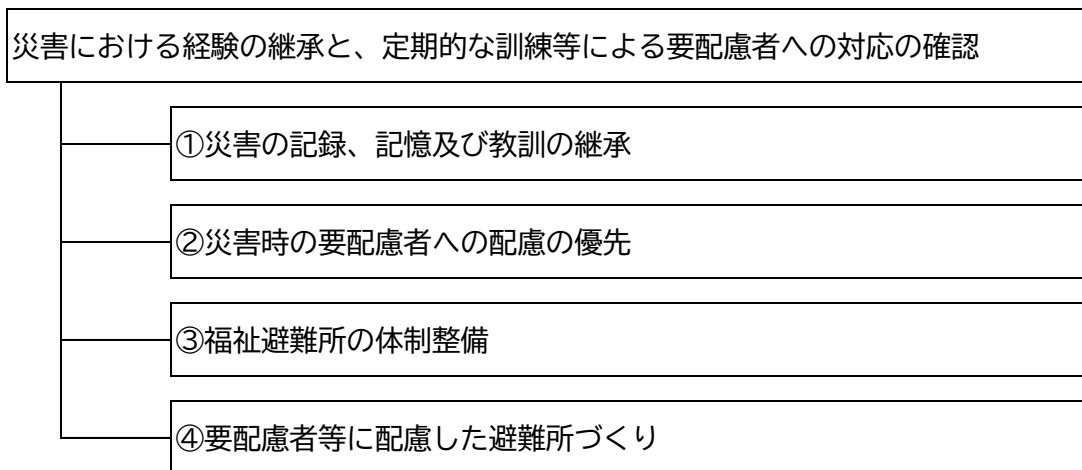
14 災害に関する人権問題

(1)基本方針

災害時に被災者の年齢や国籍、性別及び障害の特性に関する多様性を理解し、全ての被災者がその尊厳を傷つけられることなく必要な支援を受けられるよう、適切な配慮を行うとともに、熊本地震の経験を将来へ継承する取組を実施します。

また、定期的な訓練等をとおして、要配慮者への対応を確認するなど人権感覚の醸成を図ります。

(2)施策の体系



①災害の記録、記憶及び教訓の継承

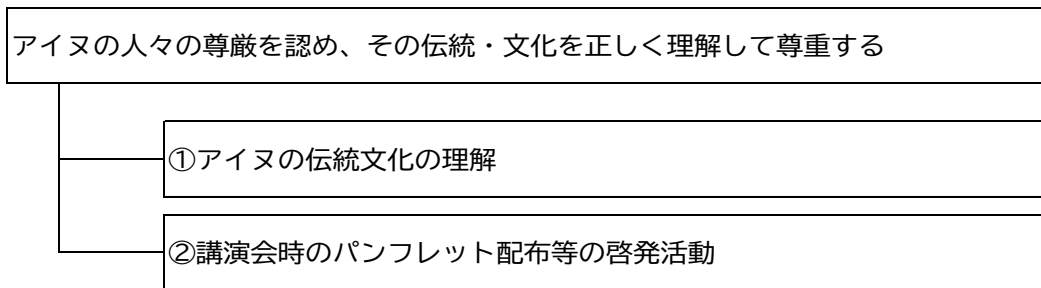
担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
富合民館、城南公民館、南部公民館、飽田公民館、天明公民館、熊本市人権啓発市民協議会	南区公設公民館合同人権啓発講演会	<p>震災時にどんな課題が起き、人権を守るにはどうしたらよいのかを、カードゲーム「クロスロード」を使い、誰でも安心して避難生活を乗り切るノウハウを語り合う学ぶ講話内容</p> <p>演 題：みんなに優しいぼうさい 講 師：柳原 志保 氏 歌う防災士</p> <p>実施日：令和7年3月16日（日） 場 所：富合公民館 対 象：どなたでも 参加人数：13人</p>	30	熊本地震を経験した故に身近に考えることができた。またゲームを通して人それぞれ多様な考え方があることを学び、寛容な態度と受容的な姿勢を持ってお互いに接していく重要性を感じていた。今後も継続して市民の人権意識の高揚を図っていく必要がある。

15 アイヌの人々に関する人権問題

(1)基本方針

文化や民族性に優劣はなく、人々の心の中の偏見が差別を生み出し、異なる民族、文化などを抑圧、排除しようとしています。アイヌの人々の尊厳を認め、その伝統・文化を正しく理解して尊重するよう人権映画会や講演会等の機会においてパンフレットを配布するなど、啓発活動に取り組みます。

(2)施策の体系



①アイヌの伝統文化の理解

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
人権政策課	人権啓発ブック「みんな幸せになりたい」の作成、配布	第2次熊本市人権教育・啓発基本計画に掲げる20の分野別人権問題について、理解を深めるために啓発冊子を作成し、配布する。 ※20の分野別人権問題のうち、「アイヌの人々に関する人権問題」についても掲載をしている。公益財団法人アイヌ民族文化財団の協力により写真提供いただき、掲載をしている。 発行月：R7.3 発行部数：647部 配布先：小・中学校、企業等	- (再掲)	差別や偏見についての気づきや話し合いの材料として、各所での人権研修等に活用されている。 学校や職場等で広く活用してもらつために、掲載内容の充実や研修会等での活用の周知を図る。

②講演会時のパンフレット配布等の啓発活動

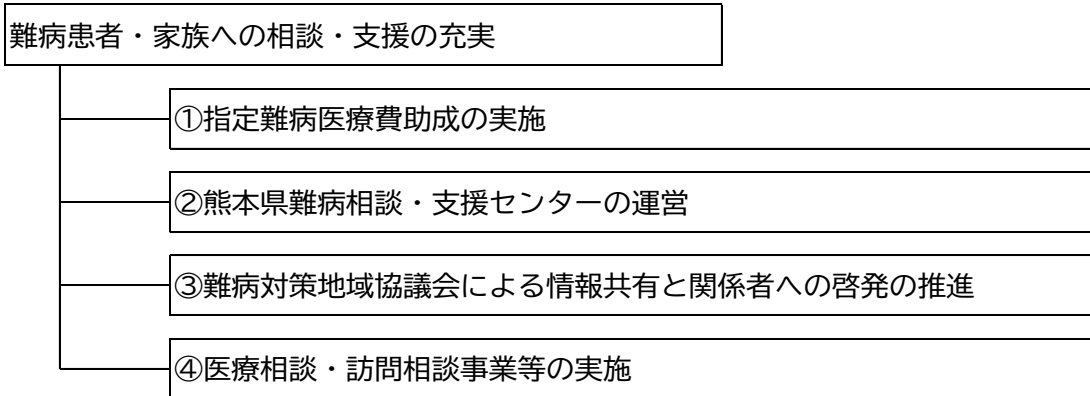
担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
人権政策課	ヒューマンライツシアター等でのパンフレットの配布	以下のヒューマンライツ・シアターの開催にあわせ、「アイヌの人々と人権」のパンフレットを配布 ①実施日：令和6年8月19日（月） 場所：くまもと森都心プラザホール ②実施日：令和7年2月23日（祝） 場所：Denkikan	0	パンフレットは、繰り返し読まれる機会が生まれ、また、持ち帰ることで家庭内での周知にもつながる。 今後も、アイヌの人々の伝統・文化を正しく理解するため、周知の機会を図っていく。

16 難病患者に関する人権問題

(1)基本方針

病気に対する無理解や偏見を払拭する啓発活動と相談・支援態勢の充実及び関係機関における情報共有

(2)施策の体系



⑤その他

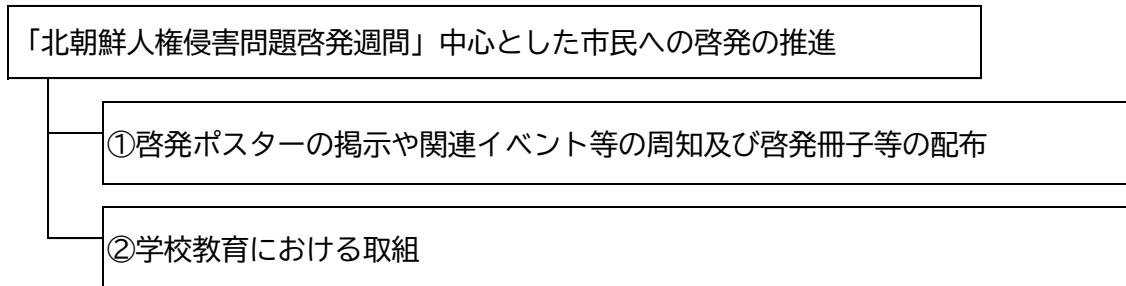
担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
人権政策課 (熊本市人権啓発市民協議会)	第66回ヒューマンライツ・シアター	言葉では伝えきれない感情や状況を共有し、人権問題を身近に感じ、考えてもらう機会とするため、人権に関する映画会（ヒューマンライツ・シアター）を実施。 【内容】 介助なしには生きられない重度の筋ジストロフィー患者と支えるボランティアの実話に基づいた物語 作品：「こんな夜更けにバナナかよ」 実施日：令和6年8月19日（月） 場 所：くまもと森都心プラザホール 対象者：どなたでも 参加者：369人	572	実施にあたっては、通信制高校のボランティアの生徒に協力していただいた。 アンケートでは、「障がいや難病についての理解が深まった」など人権意識の高揚につながるような意見が多く見られた。 引き続き、ニーズや社会情勢に沿った映画の選定に努め、実施していきたい。
南部公民館	ハートフル講演会	I型糖尿病の児童がいる学年に、大村詠一氏を講師に招き、病気の理解を促した。 演 題：「I型糖尿病とともに夢に向かって」 講 師：大村 詠一氏 実施日：令和6年12月12日（木） 場 所：日吉小学校 対象者：3年生と保護者 参加者：100人	14	病気の説明を丁寧にする事で、こどもたちの病気に対する理解が深まり、接し方などにも影響があったようだった。会場は涙する方も多く、理解が進んだ。

17 北朝鮮当局による拉致被害者等に関する人権問題

(1)基本方針

継続した拉致被害者問題の啓発活動に取り組んでいきます。

(2)施策の体系



①啓発ポスターの掲示や関連イベント等の周知及び啓発冊子等の配布

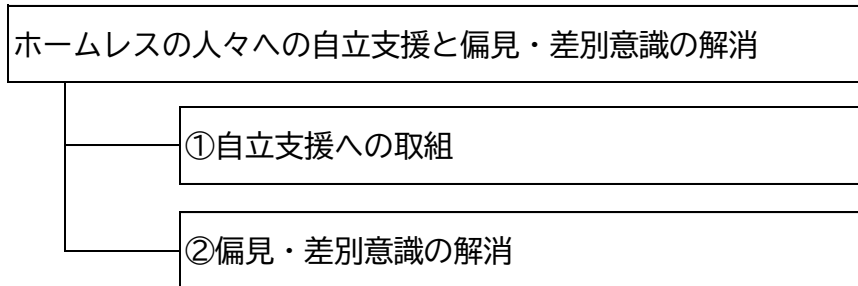
担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
人権政策課	市ホームページでの特設記事の掲載等	市ホームページにおいて、特設記事を作成し啓発を行っている。 また、啓発用DVDの貸出や啓発冊子「みんな幸せになりたい」への記事掲載、ポスターの掲示等を行っている。		○ いまだに解決していない問題について、風化させることのないよう引き続き取り組んでいく。
人権政策課	市政だよりへの記事掲載	行事やイベント、事業など熊本市の市政情報を伝えるための広報紙に、人権に関するコラム「暮らしの中の人権」を掲載している。基本計画にある20の分野別人権問題などをそれぞれの強化月間（週間）等にあわせて掲載内容を選択している。 ※市政だより12月号 暮らしの中の人権132「北朝鮮当局による拉致被害者等に関する人権問題」 発行部数 約332,000部 発行回数 毎月1回発行 規格 タブロイド判 全カラー		○ 暮らしの中にある身近な人権問題について、わかりやすい言葉で、自分ごととして捉えてもらえるような記事の掲載が必要である。 デジタルデバイスに配慮した媒体であり、家庭内で人権について考えていただく機会となるよう継続して実施していく。

18 ホームレスの人々に関する人権問題

(1)基本方針

ホームレスの人々の現状理解と偏見・差別意識の解消を目指し、啓発に取り組みます。

(2)施策の体系



②偏見・差別意識の解消

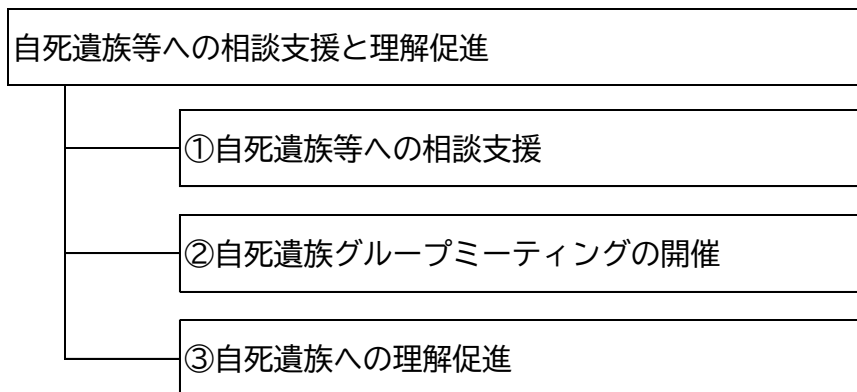
担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
人権政策課	ヒューマンライツシアター等でのパンフレットの配布	以下のヒューマンライツ・シアターの開催にあわせ、「ホームレスの人々と人権」のパンフレットを配布 ①実施日：令和6年8月19日（月） 場所：くまもと森都心プラザホール ②実施日：令和7年2月23日（祝） 場所： Denkikan	0	パンフレットは、繰り返し読まれる機会が生まれ、また、持ち帰ることで家庭内での周知にもつながる。 ○ 今後も、ホームレスの問題を社会全体の問題として捉え、偏見や差別意識の解消につながるよう、周知の機会を図っていく。
人権政策課	人権啓発ブック「みんな幸せになりたい」の作成、配布	第2次熊本市人権教育・啓発基本計画に掲げる20の分野別人権問題について、理解を深めるために啓発冊子を作成し、配布する。 ※20の分野別人権問題のうち、「ホームレスの人々に関する人権問題」についても掲載をしている。支援につながるよう相談窓口についても掲載をしている。 発行月：R7.3 発行部数：647部 配布先：小・中学校、企業等	- (再掲)	差別や偏見についての気づきや話し合いの材料として、各所での人権研修等に活用されている。 学校や職場等で広く活用してもらうために、掲載内容の充実や研修会等での活用の周知を図る。

19 自死遺族に関する人権問題

(1)基本方針

熊本市自殺総合対策計画で定められた自死遺族に関する施策について、相談支援を継続し、進捗状況の評価等を行います。

(2)施策の体系



①自死遺族等への相談支援

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
こころの健康センター	電話・来所・訪問相談（精神保健福祉相談）	電話相談（平日9：00～16：00） 新規12件 継続7件 来所相談（予約制） 新規4件 継続0件 訪問相談（必要時） 新規0件 継続0件	40	電話相談は匿名であり、周囲に自殺のことを知られたくない方にとって利用しやすい。また、自死遺族グループミーティングなど集団で話すことに不安がある場合、来所相談による個別対応が可能である。 今後も事業を継続する。

②自死遺族グループミーティングの開催

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
こころの健康センター	自死遺族グループミーティング	実施日：奇数月第4木曜日 14：00～16：00 場所：熊本県精神保健福祉センター 対象者：大切な方を自殺で亡くした方 実績：6回開催（延べ32名参加）	0	ご遺族同士が思いを分かち合う時間を持つことができ、継続参加する方も増えた。 今後も事業を継続する。

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
こころの健康センター	自死遺族交流会	自らが自死遺族でありながら自死遺族支援をしている講師を招き、自死遺族との交流会を開催。 講師：山口 和浩 氏 実施日：令和6年10月19日（土） 場 所：ウェルパル3階すこやかホール 対象者：大切な方を自殺で亡くした方 参加者：8名	0 (※令和6年度は県が負担)	年に一度、講師を招いて土曜日に交流会を開催することで、定例のグループミーティングよりも多くの方が参加している。今後も事業を継続する。

③自死遺族への理解促進

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
こころの健康センター	自死遺族支援者研修会	自らが自死遺族でありながら自死遺族支援をしている講師を招き、自死遺族支援についての研修会を開催。 演 題：自死遺族の理解と支援 講 師：山口 和浩 氏 実施日：令和6年10月18日（金） 場 所：中央公民館 対象者：自死遺族に関わる支援者 参加者：11名	0 (※令和6年度は県が負担)	自死遺族から直接話を聞く貴重な機会であり「大変参考になった」という声が多かった。参加者が少ない状況が続いているため、周知に力を入れて事業を継続する。
人権政策課	市政だよりへの記事掲載	行事やイベント、事業など熊本市の市政情報を伝えるための広報紙に、人権に関するコラム「暮らしの中の人権」を掲載している。基本計画にある20の分野別人権問題などをそれぞれの強化月間（週間）等にあわせて掲載内容を選択している。 ※市政だより3月号 暮らしの中の人権135「自死遺族に関する人権問題」 発行部数 約332,000部 発行回数 毎月1回発行 規格 タブロイド判 全カラー	0	暮らしの中にある身近な人権問題について、わかりやすい言葉で、自分ごととして捉えてもらえるような記事の掲載が必要である。 デジタルデバイスに配慮した媒体であり、家庭内で人権について考えていただく機会となるよう継続して実施していく。

20 様々な人権問題

(1)基本方針

ハラスメント問題やまだ理解が進んでいない問題、複数の問題が絡みあった様々な人権問題等について、正しい情報に基づいた人権に配慮した行動をとるよう促し、啓発していきます。

(2)施策の体系

様々な人権問題に対し、正しく理解し、差別や偏見の解消に努める

①教育・啓発の推進と問題への対処

①教育・啓発の推進と問題への対処

●ハラスメントに関するもの

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
人権政策課 (熊本市人権啓発市民協議会)	熊本市人権啓発市民協議会 トップセミナー	熊本市人権啓発市民協議会（事務局：人権政策課）に加入する企業、団体のトップや人権啓発担当者を対象とした講演会の実施。 演 題：セクシャルハラスメント再考 ～働く場の安心安全を創るために～ 講 師：波口 恵美子 氏 (公社)くまもと被害者支援センター犯罪被害者相談員 実施日：令和6年5月23日(木) 場 所：ザ・ニューホテル熊本 対象者：熊本市人権啓発市民協議会 会員 参加者：80人	30	セクシュアルハラスメントへの対応は、企業や団体において、安全で尊重し合える職場環境を築くために重要な取組である。トップセミナーにより得た知見が企業や団体ないでフィードバックされていくことが重要である。
男女共同参画課	男女共同参画 出前講座	10名以上の、男女共同参画に関する勉強会や研修会に、講師を派遣 ・ハラスメントのない職場づくりに関する講座（4回、受講者計171名）	198	HPや企業等への案内を行いながら、出前講座の周知を図り、ハラスメント防止に対する理解促進に取り組む。

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
消防局総務課	ハラスメントに関する管理監督職を対象とした研修会	<p>職員のハラスメントに関する意識や知識向上（再認識）を目的として、管理監督職としての指導方法・心構えなどについて。</p> <p>演 題：「職員研修会」 講 師：兵庫県こころのケアセンター 上席研究主幹 大澤 智子 氏 実施日：（1）令和7年1月23日 （2）令和7年1月24日 場 所：消防局2階 多目的室 対象者：管理監督職 参加者：140人</p>	110	ハラスメントに対する最新の認識を図ることができ、効果的な研修であったので、継続していかねなければならない。

●人権全般についての研修等に関するもの

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
人権政策課	人権政策推進本部（所属内での職員人権研修）	<p>人権尊重を基調とした施策を総合的かつ効果的に推進するため、市長を本部長とした熊本市人権施策推進本部を設置している。また、各課（室）に人権推進員を1名以上置き、各所属において人権に関する目標を設定し人権研修等に取り組んでいる。</p> <p>①各局（区）や各課で取組目標を設定 ②各課毎に人権に配慮した取組の実施 ③各課毎に人権問題について話し合いや研修を実施 ④年度末に自己評価や課題整理のための報告書を人権政策課に提出</p> <p>各所属の自己評価の平均点 R5：8.2点 ⇒ R6：8.2点（10点満点）</p>	0	<p>人権に関する研修会参加後の職場内での複講や朝礼での情報共有、課又は班単位での意見交換等、様々な機会を通して、各所属が独自に研修に取り組むことができた。</p> <p>自己評価の点数付けがわかるづらいとの意見があったことから、令和7年度からは評価基準を見直し継続して実施していく。</p>
人材育成センター	階層別研修における内部講師による講義	<p>公務員として、また監督職として必要な人権意識の向上を図る人権に関する講義を実施</p> <p>講師：人権政策課職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規採用職員 4月採用：258人 6月採用：8人 10月採用：2人 1月採用：19人 ・主査級昇任者 121名 	0	<p>市職員としてまた階層別での適切な人権意識を学び、人権に配慮した業務遂行ができるようになる。</p> <p>受講後アンケートに、動画視聴による理解度を測る設問を入れ、回答結果を検証し、動画作成担当課にフィードバックする。</p>

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
人権政策課 (熊本市人権啓発市民協議会)	人権学習に係るDVD等の貸し出し	学校や職場などでの人権に関する研修等を支援するため、様々な人権問題について、約400本のDVDや視聴用機材等の貸し出しを実施。 対象：教育機関、企業、団体等 期間：1回7泊8日まで 実績：142団体 延べ5,463人	465	講師派遣等によらず、安価で学習の機会を持つことができる。保育園等への貸出が多く、視覚に訴える教材は有効な手段と考える。 今後も時勢に応じた題材のDVDを入手するとともに、貸出件数が増加するようPRに努める。
熊本市ふれあい文化センター	人権研修	人権教育指導室とふれあい文化センター職員による人権研修。 演題：「ふれあい文化センター設立意義と人権全般について」 講師：人権教育指導室・ふれあい文化センター 社会教育主事 実施日：令和6年7月17日（水） 場所：ふれあい文化センター 対象者：社会教育主事 参加者：23人	0	事前に二人で内容について詳しく検討し、話をすることができた。年に一度の貴重な研修なので、更に充実した研修ができるよう、自身が学びを深めていきたい。
人権教育指導室	校内・園内研修	教職員の人権教育の基本的認識の確立と豊かな人権感覚を高めるために、各園・学校のニーズに合わせた講師を招聘した研修会に助成を行っている。 性的マイノリティ、外国にルーツを持つ子ども、ハンセン病問題などについてのニーズがあった。 実施数：27校 場所：各幼稚園・学校 対象者：当該園・校の職員	220	校内・園内での研修で、学校の教職員やこどもの実態、ニーズに応じた講師を招き、学びを深められるので、好評である。園学校により、取組に差がある。 持続可能な校内研修にするために、新たな講師の発掘をしながら進めていく。
人材育成センター	教材貸出	貸出件数 3件（27人）	0	教材を使って職場研修。市役所職員として必要な人権意識の向上と情報の共有化が出来た（返却時の感想）。 DVD教材等貸出について周知し、人権研修や各職場の職場研修が活発となるよう、情報提供等継続的に行っていく。

●啓発作品募集等に関するもの(人権全般)

担当課(室)	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
<p>人権政策課 (熊本市人権啓発市民協議会) 人権教育指導室</p>	<p>人権啓発作品募集</p>	<p>人権に関する作品を募集し、その優秀作品を広く紹介し、人権意識の高揚を図る事業。</p> <p>募集期間 : 令和6年7月1日~9月12日 表彰式 : 令和6年12月8日 表彰式会場: ウェルパルクまもと 展示期間 : 令和6年12月4日~10日 展示会場 : 熊本市役所1階ロビー ※各公民館でも一部の展示を実施</p> <p>応募作品数: 幼小中学校の部 2,367点 一般の部 1,367点</p> <p>作品活用 ・作品集の作成、配布 ・入賞作品を掲載したカレンダーの作成、配布(学校配布4650部) ・市政だよりへの掲載</p>	<p>2,563 人権政策課+人権教育指導室</p>	<p>作品を制作するプロセスそのものが人権についての理解や認識を深める機会となっており、人権教育・啓発の有効な手段である。</p> <p>また、入賞作品を掲載したカレンダーは、小中学校の各教室への掲示されており、応募者の励みになっている。</p> <p>高校生以上の一般の部についても高校にアプローチするなど若者の応募者増に努めている。</p>
<p>公民館</p>	<p>人権コラムの展示</p>	<p>社会教育主事会人権教育研究グループが毎月作成している人権コラムの展示を行い、来館者の豊かな人権感覚高揚や人を思いやる心等について考える場と機会にする。</p> <p>開催期間: 令和6年4月~令和7年3月 場所: 各公民館</p>	<p>0</p>	<p>社会教育主事会人権教育研究グループの取組を、多くの市民の方に見ていただけた。</p> <p>今後も継続して啓発の機会を設けていく。</p>

●広報紙等による啓発に関するもの(人権全般)

担当課(室)	事業名	内容	経費(千円)	効果及び課題と方向性
人権政策課	人権啓発ブック「みんな幸せになりたい」の作成、配布	第2次熊本市人権教育・啓発基本計画に掲げる20の分野別人権問題について、理解を深めるために啓発冊子を作成し、配布する。 発行月：R7.3 発行部数：647部 配布先：小・中学校、企業等	241	差別や偏見についての気づきや話し合いの材料として、各所での人権研修等に活用されている。 学校や職場等で広く活用してもらうために、掲載内容の充実や研修会等での活用の周知を図る。
熊本市ふれあい文化センター	ふれあい文化センター広報誌「かけはし」の発行	【内 容】 人権啓発研修会、くらしの講座(教養講演会)、主催講座等のセンター行事や人権一口講座及び市の人権啓発に関する行事等の案内。そのほか図書室の「新刊図書」紹介等 【配付及び回覧先】 近隣自治会、市立保・幼・小・中・高校、公立公民館 【発行部数】 毎月 2, 145部発行	—	ふれあい文化センター職員が書く「人権一口講座」、公民館社教主事人権グループで作成する「人権コラム」を定期的に掲載した。引き続き掲載を続けていきたい。
植木ふれあい文化センター	ふれあい通信の発行	人権に関する啓発記事及びセンター事業等を掲載し、近隣住民への人権意識の高揚とセンター事業への参加を促すことを目的に発行。 発行日： R6.7、R6.11、R7.2 作成部数 各2, 500部 配布先： 近隣自治会の住民及び学校	25	各世帯へ配布することにより、人権についての意識づけを定期的に行えることや講座案内等のセンターの事業について広く周知することができ、センターの人権に係る掲示物も見ただけの効果もある。今後も周知のため発行を行う。
人権政策課	市政だよりへの記事掲載	行事やイベント、事業など熊本市の市政情報を伝えるための広報紙に、人権に関するコラム「くらしの中の人権」を掲載している。基本計画にある20の分野別人権問題などをそれぞれの強化月間(週間)等にあわせて掲載内容を選択している。 ※市政だより1月号 くらしの中の人権134「公正な採用選考をめざして」 発行部数 約332,000部 発行回数 毎月1回発行 規格 タブロイド判 全カラー	0	暮らしの中にある身近な人権問題について、わかりやすい言葉で、自分ごととして捉えてもらえるような記事の掲載が必要である。 デジタルデバインドに配慮した媒体であり、家庭内で人権について考えていただく機会となるよう継続して実施していく。

●人権全般に関するイベント、講演会等

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
人権政策課 (熊本市人権啓発市民協議会)	ロアッソ熊本と連携した人権啓発事業 〈法務省人権啓発活動地方委託事業〉	<p>Jリーグチーム ロアッソ熊本と連携した人権尊重意識の普及・高揚を図ることを目的とした啓発事業。「ラブミンマッチ」と称したタイトル試合においてイベントを実施。</p> <p>①ホームゲームでの啓発 実施日：令和6年11月4日（月・祝） 会場：えがお健康スタジアム 対戦相手：ベガルタ仙台 観客数：6871人</p> <ul style="list-style-type: none"> 試合前とハーフタイムでの啓発イベント 人権教室及びふれあいサッカー教室 市長メッセージの放映 啓発ブースでの冊子やグッズの配布 <p>②ロアッソ熊本選手出演による啓発映像コンテンツの放映</p> <ul style="list-style-type: none"> 街中ビジョン（WAOビジョン）1ヶ月360本 区役所区民課及び総合出張所の窓口案内モニターでの放映（9月、12月） 	1,950	<p>マスコットキャラクターによる啓発イベントを通じて、来場された方が人権を身近に感じる（意識する）機会となった。啓発ブースでは、啓発冊子や人権110番を掲載したグッズの配布等により、人権相談の窓口等を市民に周知することができた。また、啓発グッズは障害者優先調達推進法に沿ったものを作成した。人権教室においては、フェアプレーの精神、チームメイトへの思いやりなど人権意識の醸成を図ることができた。観客数の多い中でのイベントであり、多くの方に取組を伝える機会となった。</p> <p>ロアッソ熊本事務局との契約内容の制約もあり、実施可能な範囲で啓発効果の高い手法を検討していく。</p>
熊本市ふれあい文化センター	出前講座	<p>ふれあい文化センター職員による体験型人権学習。</p> <p>演題：「マイクロアグレッションについて」 講師：ふれあい文化センター職員 実施日：令和6年9月27日（金） 場所：大和コミュニティセンター 対象者：大和地区社協と高齢者 参加者：32人</p>	0	<p>「私の子どもは障がい者のため、『かわいそう』と言われた時に、どうやって返せばよいか分からなかったが、しっかり言葉で返すことが大事（お互いのコミュニケーション→理解）と分かりました。」との感想があった。進行の仕方をもう少し工夫したい。</p>

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
西部公民館	西部公民館人権講演会	<p>軽妙な落語の語り口から、人権や社会的包摂を考える機会とし、人権意識の醸成を図るもの</p> <p>演 題：落語に学ぶ認め合うやさしさ 講 師：粗忽家勘心 氏 実施日：令和6年11月16日（土） 場 所：西部公民館 大ホール 対象者：どなたでも 参加者：47人</p>	14	<p>地域の方にご参加いただけたが、落語によって楽しい時間となっただけではなく、ちょっと我が身を振り返って「やさしさ」について考える時間となった。</p>
龍田公民館	龍田公民館主催教養講演会	<p>講師は、日常的な出来事の中から、人と人とがつながり協力し合い、より良い暮らし営む中には、互いの背景を思いやり理解しようとする気持ちがあることに改めて気付くことができる内容を落語を通して伝えた。</p> <p>演 題：「笑いは心の栄養 ～笑顔でつながる家族の絆～」 講 師：粗忽家勘心 氏 実施日：令和7年2月1日 場 所：龍田公民館ホール 対 象：どなたでも 参加人数：30人</p>	14	<p>楽しい話の中にも、たくさんの方の気づきや学び、そして相手を理解し、思いやり気持ちをもって暮らすことの大切さを聞くことで、自分のこととして捉えることができていた。</p> <p>今後も継続して啓発の機会を設けていく。</p>
北部公民館	主催講座	<p>いれずみを入れる意味や理由、時代によるいれずみの価値観の変化等、いれずみに対する日本人のまなざしについて学ぶ内容。</p> <p>講座名：「いれずみ」に対する日本人のまなざしについて 講 師：小野 友道 氏 皮膚科学・皮膚腫瘍学 元熊本保健科学大学学長 実施日：令和6年5月21日 場 所：北部公民館 対 象：どなたでも 参加人数：25人</p>	6	<p>参加者が「いれずみ」のことを知り、社会や人々の心の中にある「いれずみ」に対するイメージ等について考えることで、自身の人権感覚や意識を見つめ直すことができた。</p>

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
植木公民館 北部公民館 清水公民館 龍田公民館 熊本市人権啓発市民協議会	北区公設公民館 合同人権啓発講演会	中村哲医師によるアフガニスタンでの活動の中で、私たちに命がけて教えてくれたこと「平和そして人の道」について参加者一人ひとりが自分の生活や人生と重ねながら考える機会となる講話内容。 演 題：「中村哲医師が命がけて私たちに教えてくれたことー 平和そして人の道ー」 講 師：高世 仁 氏 ジャーナリスト 実施日：令和6年6月16日 場 所：植木公民館 対 象：どなたでも 参加人数：188人	200	素晴らしい内容であったとの回答が大多数であった。時代の流れや必要性等を考慮しつつ、今後も市民の人権意識の高揚を継続して図っていくことが大切だと感じた。
北部公民館	主催講座	化学物質過敏症についての困りや課題を当事者から聞き、どんな風に接すればよいのか等を学ぶ。 講座名：化学物質過敏症と、これからの地域社会 ～誰もが安心して”呼吸” のできる社会を目指して～ 講 師：今村 良 氏 化学物質過敏症患者会くまもとCSの会共同代表 実施日：令和6年8月28日 場 所：北部公民館 対 象：どなたでも 参加人数：19人	6	社会や人々にあまり知られていない「化学物質過敏症」に対する理解が深まり、参加者一人ひとりの人権感覚や意識を見つめ直すことができた。
龍田公民館	おでかけ公民館講座、ハートフル講演会	講師は、自分自身の生き立ちを振り返り、差別とは何か、人としてどう生きることが大切なのか、実体験をもとに講話をおこなった。 演題：私はあなたのために何ができるでしょうか 講 師：新本 高志 氏（洋菓子屋） 実施日：令和6年11月20日 場 所：武蔵中学校 対 象：全校生徒及び教職員 参加人数：367人	7	講師の実体験を真剣に聞き、自分や周りの人を大切にする事自分のこととして捉えることができていた。 今後も継続して啓発の機会を設けていく。

●戦争と平和に関する啓発

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
東部公民館	ハートフル講演会講演会	戦争（被爆）体験談を通して戦争と平和及び人権についての理解を深める 演 題：「戦争と平和」 講 師：浦田 藤枝 氏 実施日：①令和6年10月1日（火） ②令和6年10月29日（火） 場 所：①尾ノ上小学校 ②健軍学校 対象者：6年生と保護者 参加者：①137人 ②93人	14	講師の実体験に基づく講話により、こどもたちの胸に厚く響いたようだ。質問にも丁寧に答えていただくことによりこどもたちの理解が深まり、平和について人権について考える良い機会となった。 今後も継続していきたい
西部公民館	おでかけ公民館講座	原爆被害者である講師をお迎えして、当時の状況や思いを聞き、平和を考える講演会 演 題：戦争体験と平和の大切さ 講 師：浦田 藤枝 氏 実施日：令和6年11月1日（金） 場 所：小島小学校 6年生教室 対象者：小島小6年生 参加者：59人	14	被爆された時の状況を聞いて、その時の心情をたずねるなど、積極性にあふれる講演会となった。
植木公民館	おでかけ公民館講座	講師から、長崎での原爆被害の実体験やその後の生活、苦しみ、差別のつらさなどを知る内容。 演 題：「長崎原爆被害のお話 いま私が伝えたいこと」 講 師：浦田 藤枝 氏 実施日：令和6年10月9日（水） 場 所：菱形小学校 対 象：6年生児童と保護者 参加人数：44人	7	講師から当事者の思いを聞くことで、自分のこととして捉えることができていた。 今後も継続して啓発の機会を設けていく。
東部公民館	ハートフル講演会講演会	戦争体験談を通して戦争と平和及び人権についての理解を深める 演 題：「平和の紙芝居・原爆と核兵器のおはなし ～今、私が伝えたいこと～」 講 師：工藤 武子 氏 実施日：令和6年11月1日（金） 場 所：山ノ内小学校 対象者：6年生と保護者 参加者：101人	7	工藤さんの平和への祈りは胸に響く内容であり、紙芝居をプロジェクターで投影したため、情景を想像しやすかった。修学旅行の事前学習として平和学習や人々の人権についてしっかりと考える機会となった。 今後も継続していきたい

担当課（室）	事業名	内容	経費 (千円)	効果及び課題と方向性
南部公民館	ハートフル講演会	原爆被害者の工藤氏を講師に招き、元国鉄職員の被爆体験を基にした紙芝居を上演し、原爆の悲惨さを語る。 演 題：「戦争・原爆体験を通し」 講 師：工藤 武子氏 実施日：令和6年10月17日（木） 場 所：力合小学校 対象者：6年生と保護者 参加者：100人	14	紙芝居を聞きながら、実際の原爆を想像し、過酷さや悲惨さを感じることができた。貴重な講話で、こどもたちも真剣に聞いており、理解が深まった。
植木公民館	おでかけ公民館講座	講師から、長崎での原爆被害の実体験やその後生活、苦しみ、差別のつらさなどを知る内容。 演 題：「長崎原爆被害のお話 いま私が伝えたいこと」 講 師：工藤 武子 氏 実施日：令和6年10月23日（水） 場 所：山東小学校 対 象：6年生児童 参加人数：28人	7	講師から当事者の思いを聞くことで、自分のこととして捉えることができていた。 今後も継続して啓発の機会を設けていく。
熊本市ふれあい文化センター	教養講演会	被団協のお二人を講師に招き、戦争・原爆の悲惨さを知り、平和について考える講演会を実施。 演 題：「戦争・原爆を体験して」 講 師：工藤武子氏 原田俊二氏 (熊本県原爆被害者団体協議会) 実施日：令和6年8月1日（木） 場 所：ふれあい文化センター 対象者：地域住民 参加者：35人	14	「平和の誓いを直接伺うことができて胸がいっぱいになりました。ありがとうございました。平和は行動を起こさなければ守れません。自分の立場でできることをやっていたと思っています。」等、大きな反響があった。平和についての講演会は毎年行っていきたい。
植木公民館	原爆パネル展示の取り組み	広島・長崎に原爆が投下され今年で79年目となる。唯一の被爆国としての体験を風化させることなく、原爆死没者のご冥福と、核兵器の廃絶並びに世界の恒久平和の実現を祈念するため、日本原爆被害者団体協議会が制作したパネルを展示し、来館者の恒久平和への願いの高揚を図る内容。 開催期間：令和6年8月4日（日）～17日（土） 場所：植木文化センター1階ロビー	0	多くの市民の方に見ていただけた。 今後も継続して啓発の機会を設けていく。